



イ ス ペ ラ ン ト 研 究

JATO XVII N-RO 12

# REVUO ORIENTA

1936

PANA ESPERANTO-INSTITUTO DECEMBRO



今年をふりかえつてみて.....	513
學校講習第一主義.....	渡 部 隆 志 514
日本大會後の札幌.....	相 澤 治 雄 517
分裂の危機で立つて.....	518
動詞 Fari の用法.....	小 坂 狷 二 522
落穂拾い.....	川 崎 直 一 525
アフリカ莊園の物語.....	萬 澤 ま き 子 227
Skizo de la lingvo internacia "Zilengo".....	丘 浅 次 郎 530
Moderna Edukado en Japanujo.....	新 川 正 一 532
Pri etimologioj de esperantaj vortoj.....	藤 田 穂 三 534
Florvazo.....	西 村 正 雄 537
Respondante al la Demandoj pri Manĉurio (2).....	南滿洲鐵道株式會社 537
La Trombo.....	田 口 龍 雄 540
新刊紹介.....	541
會員の聲.....	543
内外報道.....	544

我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關  
財團 法人 日本エスペラント學會

東京市本郷區元町一の一三

—【電話小石川(85) 5415 番 — 振替口座東京11325番】—

世界エス運動の中心機關萬國エスペラント協會(UEA)に對し我國を  
代表する本會に入會され我國のエス運動を援助せられよ

目 的	エスペラントの普及、研究、實用
事 業	(a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表 (b) 雜誌及圖書の刊行及外國エス語書籍の取次 (c) 講演會講習會の開催及後援 (d) 其他本會の目的を達成するに必要な事業
會 費	(a) 普通維持員 年額2圓40錢 (b) 正維持員 年額3圓 (c) 贊助維持員 年額5圓 (d) 特別維持員 額10圓以上 (e) 終身維持員 一時金100圓以上
維持員へは	La Revuo Orienta を無代配布する他當會發行新刊圖書の割引等をなす ことあり
本 會 の	普通維持員を除く他の維持員はすべて萬國エスペラント協會(UEA)の 普通會員(simpla membro)となる
入 會 手 續	住所 職業 姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい

會則及發行及取次内外圖書目錄要郵券二錢

役 員 名 簿 (五十音順)

理 事 長	大石 和三郎	同 東 部 部 長	土 岐 善 磨	理 事 (常任)	三 石 五 六
理 事	井 上 仁 吉	同 監 事	西 成 甫	(同)	美野田 琢磨
元東北大總長	井上 萬壽藏	同	藤 澤 親 雄	監 事 監 事	鈴 木 正 夫
同	上 野 孝 男	同 監 督 局 長	前 田 穰	同	堀 眞 道
同	小 坂 狷 二	同 監 事	望月 周三郎	同	清 水 勝 雄
同 中大教授	川原 次吉郎	同	柳 田 國 男	顧問 法 博	穂 積 重 遠
同 文 博	黒 板 勝 美	同 (常任)	大 井 學	同	子 三 島 章 道



# LA REVUO ORIENTA

## 今年をふりかえってみて

1936 年もまさに暮れんとしてゐる。1936 年は世間では非常時とよばれる年であつたが我エスペランチストにとつても數年前に比べて世間並によい年ではなかつた。しかし近年としては我々の運動からみて幾分活氣をおびた年であつた。

今年の初には學會としては R. O. の増頁（本文 32 頁を 40 頁とした）の斷行をした。そのため増頁會員百名募集を目標に努力したが地方會各位の御盡力によつて百數十名をふやすことができた昨 1935 年の初に九百名餘りだつた會員數を今日千三百五十名位にすることができたその素地をつくつたのは愉快であつた。

次に今年に於て特筆大書すべきことはエス運動後援會の結成のことである。とにかくエス運動のための資金として同志數百名の賛同の下に千五六百圓を集めることが出来、そのお蔭で新聞、雜誌等に學會の廣告をのせることも出来、また新聞社その他へエス界の諸種のニュースを提供しその結果エス語も久し振に *journalismo* の波にのりネ・エスペランチストの話の間にもエス語といふ名が時々出てくる程になつた。我國にエス運動初まつて以來最初の活氣あるエス宣傳の資金調達と云つてよからうと思ふ。

次に我國エス運動三十周年記念の催しがあり本誌としては三十周年の回顧を有志に書いていただいて百餘頁といふ龍大な記念號を出したことは特筆に値する出来事であつた。

東京ではこの三十周年記念として運動の初期に第一線に働かれ後日身邊多忙のため身をひかれた方々や引つゞいて今日に及んでゐる方々を招待し回舊談をきゝ今後の運動に重要な参考とすることが出来た。

八月の北海道大會の直前運動後援會より特使を北海道及東北數縣におくつたため本年後半に於て右の地方のエス運動が久し振に活況を呈して來たことはよろこばしいことである。

もし我々の今年の努力が數年前のもつと社會情勢が我々の運動に *favora* な時代に於てであつたとしたら どんなにかエス運動が長大の發展をとげたことであらうかと思ふ毎に我々に *malfavora* な現在の社會情勢をかなしむ。

來るべき 1937 年。エス語發表五十周年にあたる輝しい年。我々はこの年に一層大きな飛躍をのぞみたい。

思ひ出多い 1936 年をおくると共に多幸でありたき 1937 年を迎へ我々は一層覺悟を新にしようではないか。(O.)



# 學 校 講 習 第 一 主 義

エス運動・力點のおきどころ・7

渡 邊 隆 志

★エスペラント運動とは損をすることである：といへば又むきになつて怒る人があるに違ひないが、まさか今時エスペラントでもうけてゐるなんていふ人はあるまい。尤もエスペラントで飯を喰つてゐる人は廣い——或ひは狭い日本にどうやら二三人はあるだらうが、此の人々にした處が他のもので食つたらもつとうまく食つて行ける御歴々ぢないか。

エスペラントなどやつたために飛んでもない馬鹿をみてしまつた、出来る出世も出来ずに了ひ、親兄弟からは見放され、折角の愛人にも愛想をつかされ、虻蜂とらずで、元も子もなくしてしまつた、などいふ御念の入つたのではないかもしれぬが、その代り、天から降つたか地から湧いたかのやうに、僅か一二年エスペラントを勉強をしたためにビックリする程世間の信用が増して瞬く間に立身出世したとか一身代築き上げてしまつたなどいふ景氣のいい話は聞いたことがない。よく、われわれ仲間がエス語學習の利益を事々しく數へ上げるけれども、裏から眺めると案外に見掛倒しが多いものである。あたかも北海道の人達が無闇に冬の北海道の團樂の佳さだけを吹聴するに急に、一冬少くも五六十圓はかゝる燃料費を計算に入れてゐないと一般で、己の浪費を certigi する slipo を誇示するに似た愚さが隨所に見られる。少くも日本に於てエスペラントはまだ商品價値を有してゐない。従つてこれを以つて飯を食ふことが出来ないのは當然である。謂はゞ人工交配によつて新たに試みられた室造りの新種の蔬菜であつて、育成家に従へば風味絶佳、營養 100 % 而かも低廉無雙だとはいふが、一般世人はまだ充分これに狎染まず、その名稱をすら知らぬものが多いといつた觀がある。氣の速い商人の幾人かは此の新種の市場開拓に手を出して見て、前途も相當に有望だといふ見透しもついたに拘らず、資本の杜絶と根氣負けから廣告費を抛げだして店をたゞんでしまつた。全國小賣商人も多少づゝ仕入れてはみたが宣傳不足のため、思ふやうに買手がつかず、結局は自家用に喰ひつぶしてしまつたといふ態である。エスペラント運動がまだ宣傳の時代を脱しきらない限り、これで利得を掠めようなどいふはもつてのほかの隱謀で、釣糸に觀世撚を用ひるやうなものである。

## ★僕は何故にエスペラント運動に参加してゐるか

僕は今も猶ほ、自分の専門の仕事以外に所謂中等學校英語教師として高學年の生徒に英語の譯讀を教へて一日三飯の恩義に酬ひてゐる身分である。一般の學校教師として、之れに荷賦せられた義務と責任とを感ずることに於て、僕は敢て他の教員諸子に多くゆづる處あるとも思つてゐない。然るに必須科目としての英語を教へる段になると、多少の感なき能はぬ、自分が一種のカイライの如くに見えて、何かしら滑稽の装ひをまとうに至るのである。やはり英語は商賣になる。

ともあれ、一般外國語の教授が商賣になるのは、それが學ばんとする者の外部からの要求だからであるに對して、エスペラント運動が商賣にならないのは、それが運動をなす者の内的要求から止まつてゐるが故である。これと同時に、エスペラント運動が商賣にならない重大な理由の一つは、僕達が餘りにザメンホフを愛しすぎてゐるからでもある。ザメンホフ自身は謙



護にも彼の所産たる此の言語を單なる *komuna ilo* だと宣言してゐるにも拘らず、彼の徒輩達が勝手に之を *sanktigi* して祭壇に祭り上げてしまつてゐる傾向が極めて濃厚であるのは否めない。僕なども、實はよろこんでその好例となることを慫慂してゐる者の一人であつて、従つて之を賣物にすることはまことに堪え難く、苦痛と不快と冒瀆をさえ覚えるのである。

金と女と名聲との強力な挑戦に對して最後まで敢然として節をまげることなく戦ひ抜いた斯の人の唯一の遺産たる斯の言語を、僕達が金で賣つたんぢあ申譯がないぢやないか。

エスペラント運動に参加することは、僕にとつて、ザメンホフへの歸依であると同時に、甚だ愚しながら有縁の人々への傳道であり、宣教である。此の有縁の人々を僕は特に愛して止まぬ青少年學生々徒の間に求めようとしてゐるのである。

### ★何時までエスペラント運動を続けるか

勿論死ぬまで。尤も、死んでまでもとは、意氣は壯であるが云ひきれない。だが不幸にして——然り不幸にして、運動を途中で止めなければならない時機に逢會するかも知れないことを常に危懼してゐる者、獨り僕だけではないだらう。エスペラント運動をやめなければならぬ時機とは、我國文教當局がエスペラントを中等學校正科として義務的に學習を強制するに至る時代である。即ち *Zamenhofismo* が *politikismo* に轉化して、彼の分身が現身全地に遍在するに至る時機である。此の時機こそ正に待望の時、勝利の時であると同時に、一願成就して即身成佛、地上天國顯現の時でもある。此の時は又、エスペラントか他の國語と同様に、或ひはそれ以上に高値な商品として登場するのだからすごいものである。もはや、ザメンホフもエスペラントもエスペラントチストも悉皆歴史的存在となりおほせてしまふのだから見事である。過去に於ける闘士の面々も、今は浴衣がけにくつろいで扇片手に、或ひは赤々と燃えしきる暖爐に頬を染めながらさぞやのうのうとすることだらう。寫眞の中で懊惱と悲愁に重く淀んだザメンホフの肖像に、二重寫しのやうな笑顔がゆらめくのも此の時代だらう。謙讓な彼のことから哄笑はしまい、いともつゝましやかに口邊の無精ひげを僅かに波立たせる位かも知れない。此の時にあたつて、我等百千の同志の顔々に多少なり悲哀の表情を見ることが出來まいか。いやいや飛んでもない話だ。その時こそ命がけで堂々ともうけてやるんだとうそぶくやうな氣息の強い人々もないとはいへない。

あゝまるで夢だな！ だが、夢から現實に歸つて、再び四圍に眼を轉ずる時、やはり僕はエスペラントが國家庇護の許に、型にはまつた教則本で、*esp-ismo* をなくした *esp-vendisto* の手で全國中等學校に無理押しに教へ込まれることには、どうしても賛成出來ない。長いこと極樂に住みなれた善男善女のやうに、*samideaneco* と *batalemo* を失つてしまつて、單にエスペラントと読み書き話すことだけをなし得る人口を無制限にふやして行く仕事など思つたゞけでゾツとする。斯やうな言語教育の墮ち行く道は現在英語教育の失敗が最もあざやかに示してゐる。

創始以來燎原の火の如き勢を以つて全世界に火の手を舉げた啓示宗教キリスト教が、二千年かゝつて現在に保有する教徒の數は、或ひは世界人口の半弱と號してはゐるが、實數は約一割であらう。ザメンホフ個人の純知能的所産たるエスペラントを語る人口が、現在は知らず今後千年を経たとても地球表面の一割以上を占據しようとは、豫想もしないし、期待もしない。従つて、エスペラント運動は、今ややうやく實用の世界へ初一步を踏み込んだのは事實ではあるが、同時に未墾の處女地は無限に永久に保存せられて、子々孫々に至るまで我等エスペラントを愛する者共に負はさるべき、綿々として絶えざる快き荷重となるであらう。これ即ち、僕が



エスペラント運動に於て、常に pesimisto たると同時に、常に optimisto たる所以である。かくして我々の運動は濱の眞砂と共に永遠に續くかどうかは別問題としても、少くも人類の存する限り繼續し得る事業である。

★**扱最後の問題は：**以上豫備的事情を一巡した上で、標記の結語に至る道を迎ふことである。實は僕がこゝにこんな記事を書くに至つた次第は、此の夏東北及北海道を巡歴された岡本さんと旭川の宿で夜來の雨に降り込められて所在なさの徒然からとりとめのない話の末に、あなたも何か一つ書きなさい、學校講習第一主義などはどうですかと申入れられたのに初まるのであつて、かねてからの計劃的なものではなく、別に成案があつてのものでもない。更らに又、現在の僕は或る事情から標記の主張を實踐する希望を當分抑制せられてゐる位置にゐるので、これはあとから思ひついたことであるが、却つて金澤商業の菅野さんにでもお願いした方が、はるかに優れた御意見をうかがひ得たらうにと残念に思つてゐる次第なのではあるが、これはこれとして、僕個人の小見として、幾人かの同志の同感を得れば幸甚だし、萬一この蛇足的な小文に對して啓蒙の鞭をいただけることもあればさらにうれしいことである。

要するに僕のいひたいことは：

エスペラント運動は、敢て中等學校とはいはず、とにかく、學校講習を主流とせよといふにある。而して、此の運動の目標とする處は、先にも述べた如く、これを正科として導入するのではなく、隨意科或ひは選擇科目として他の幾何かの外國語の科目と同列に配し青少年學生々徒の純情に訴へて彼等の自由選定に任せるといふ語學教授制の確立を期するにある。

純眞一徹な青少年の心情はエスペラント聚落の培養には絶好適確な温床である。

エスペラント運動終局の目標は全世界のあらゆる街頭に此の聖火を點ずることではあらうが運動の過程はそんなに華やかなものでは決してない。紅燈紫塵、綠酒の泡を浴びながらさゝやくエスペラント運動も運動だし、ジャズに合せて歩度を取りながら一進一退するのも運動のたしにならぬことはないだらうが、然し、それ等が正道だとは決していえない。輕跳浮薄がならはしの現世にとりのこされて、古色蒼然たる傳統の塵に蔽はれてこそ居れ、今もなほ古典的神聖を誇り得るものに學校の教壇がある。これをとり残したエスペラント運動は、自ら好んで水邊の砂上に亂舞するもので、遂には水面下に自らをすら没入する危険なしとは思はれない。僕達はエスペラント運動を導入することによつて、學校教壇の此の古典的骨格に、明朗輕快な近代的衣裳をまとはせ得ることを心得て居るのだから、とにかく舊套に陥りがちな學校教育そのものを、これによつて飛躍的に高揚せしめ得る譯だし、一面又學生々徒の純粹無垢な心情は地底深い水層の如くで、汲めども汲めども盡きる處をしらない冷徹醫渴の水源を此の末世的頽流に供するものであり、僕達の運動をこれに合流せしめることは、實に全般エスペラント運動の最も有効適切な捷徑であると共に正々堂々の大道である。

《それで君の云ふことは分つた。一應尤もである。然らば誰がこの開かれようとしてゐる扉を排して進むのか》此の回答は簡單である。即ち當該校の職員エスペランチストが之を敢行するに最も適當な指導者である。エスペランチストの居ない學校には當分無理に働きかける必要はない。今はたゞ我々の手で出来るだけの成績を擧げてその實績を世間に示せばいい。効果が擧がれば周圍は期せずして追隨する。僕達は自分達の職場から餘り遠く離れてはいけな。眼は廣く、手は狭く。これを運動の根本精神とせねばならない。かう云ふとまるで學校講習には學校職員以外の同志のおせつかいを全く希望しないやうに聞えるかも知れないが、これは僕自身が學校職員である立場から最善と思ふ道を選んだだけであつて、餘裕があり又道の通ずる學



校關係以外の同志の援助が得られれば、それこそ僕達の仕事の補強或ひは擴充の工作として切に期待する處のものである。猶ほ又運動の主潮を中等學校に向けたのも時齡的に最も有効な處として選んだもので、之を小學校或ひは上級學校に於て實施していけない筈は決してない。

何かまだ云ひ足りない處があるやうだが一應これで筆を擱く。

## 日本大會後の札幌

相澤治雄

全北海道の同志が全力を傾倒して其の成功に努力した日本大會の終つた後、靜かに過ぎ來し方を振り返るとそれが如何に運動を盛ならしめたか、如何に有意義であつたかと云ふ事がしみじみ感ぜられる。札幌に於ける日本大會は今迄の大會と異つた特種な使命を持つて居た。恐らく何處でもエス運動が盛になり、同志の數も殖えて自然と大會を待望する聲が生じて遂にそれが開催されるやうになつたのであらうが、札幌大會は一寸その趣を異にしてゐる。勿論全北海道の同志が熱心に大會の開催を望んだのも一つの原因でもあるが、札幌に於ける普及宣傳の困難な狀況の打破と云ふ事が最も大きな理由である。エス運動に對する種々の誤解や不認識を打破するには何か大きな華々しい最も人目に立つやうな仕事をする必要があつた。で今度の大會には特に宣傳や啓蒙的な仕事に力を入れた。即ち普及講演會や展覧會に宣傳にビラ三千枚、通知端書五百枚、ポスター百五十枚、電車内の廣告等大いに努力したのもこの爲である。

大會は數に於ても内容に於ても我々の期待以上のものがあつた。その後の札幌に於けるエス運動は著しく活潑になり、これに對する市民の理解の深まつた事は驚く程である。今迄エス語の學習に二の足を踏んだ人達もどしどしと講習會に來るやうになつた。大會直後八月十二日から開催した講習會の參加者は四十五人の多きに達した。しかも特筆すべき事は今迄と違つてエスペランチストの親戚とか知人とかを無理矢理引張つて來たのではなく、全く廣告や新聞等を見て來た人だけだといふ事である。その爲皆非常に熱心で最後迄續けて來た人が多く中止した人は一人か二人より居なかつた。會場を提供された眞下病院長は非常に熱心な支持者で會場の疊の縁までわざわざ縁にして下さつた程である。余程以前に研究された事があるさうである。こゝういふ熱心な支持者を得る事が出來たのも大會のお蔭である。この講習會の後今迄は二三人より集まらなかつた水曜日の集會には少なくとも十二三人は集まつて居る。大會々長高瀬正榮先生は札幌エス運動の草分けとも云ふべき最も古くからのエスペランチストで大會後直ちに札幌エス會の會長に就任された。札幌エス會は新會長の統制の下に益々發展し大きな足蹟を残して行く意氣込みである。

運動そのものが盛になつた許りではない。知識階級の人々の間にもよき理解者が續々と現はれつゝある。大會前進藤氏より戴いた手紙にロータリー俱樂部に働きかけるやう書かれてあつたがロータリー等は到底私なぞが顔を出し得るものではないので色々方法や手蔓等を考へて居た。丁度其の時大學醫學部の眞崎教授がエスペランチストなので大會に御協力願ふやうにお伺ひした。そして先生もロータリアンである事を知つたのである。岡本氏が特使として來札された時、同氏にロータリーの集會でエス語の説明をして戴くやう眞崎先生にお願ひした處先生は早速プログラム委員長にわざわざ電話をかけて下さつた。次の日岡本氏はロータリーの集會で短時間ではあつたがエス語に就て演説された。これが實に大きな影響を知識階級に及ぼしたの



である。ロータリーでは今集會が終つてから眞崎先生を講師として講習會が始められたさうである。その顔振れはもと三越支店長、福山商會主、越山商會主、大學教授數名、市立病院院長等約十名で札幌の最高知識階級に屬する人々である。又會場のグランドホテルの接待係の人々も我々もその必要に迫られて居ますと云つて居たが、この講習會に出席して居る筈である。之は全く劃期的な事である。こう云ふ人達がエス語を研究するといふ事は其の研究が完成するしないに拘らず只それだけでも非常に有意義な事である。

札幌病院に於ても近く同好の士を集めて講習會を開きたいと云ふ事を藥局長山下氏（岡本氏の親友）が云つて居られた。院長が熱心なエス語の支持者であり自分でも學習を始められた事であるから近く之が實現し醫學者のエス會が誕生する事であらう。

今度札幌に文化聯盟なるものが結成される事となつた。この聯盟に於ても札幌エス會の華々しき活躍が約されてゐる。この加盟團體は札幌エス會の外、人生創造札幌支部、皇漢學會、天文同好會、普門會、雄辯研究會、詩吟聯盟等々今の處十二團體といふ事であるが將來百數十の文化團體を綜合する素晴らしい組織になるのださうである。かゝる文化團體と手を携へて進むといふ事は大層結構な事であると思ふ。又他の團體でもエス會の加入を非常に望んで居り此の聯盟に於て最も大きな仕事をするものは札幌エス會であらうと云つて居る。まだ發會式は擧げないがロータリーと云ひ文化聯盟の事と云ひエスペラントに對する深き認識の一證查であると思ふ。

問題の大學の方はどうかといふに大會の開催によつてその狀勢は全く變じて了つた。以前には大學エスペラント會を解散せしめその集會を禁じ、札幌エス會の會合に出る事も禁じ、個人的な研究さへも變な目で見て居た大學當局が大會の時には學生課長の代理を出席せしめた。これ許りでなく學生課にもエス語を研究しはじめた人が居る。今學生職員教授等大學内にエスペランティストが二十數名も居るから大學エス會の出来るのもさう遠い事ではあるまい。今迄大學エス會が解散したきりになつて居たのは單に學内エスペランティストが少數であつた許りではない學生課の理解が得られなかつたからである。

大會に警察署外事主任が來賓として出席された。先日同主任にあつて感想を叩いたところ發會式の時前に用意してエス書の祝辭を持つて行きたかつた多忙のため君に相談出来なかつたのが残念だと云つて居られた。

このやうに大會後あらゆる方面にエス語が認識され理解されつゝある。之は全く大會を開催したお蔭に外ならない。紙面の都合で札幌の事に就てより書けなかつたが、全北海道の各地に於けるエス會も札幌と同様の非常な發展を遂げつゝある。私はこゝに日本大會をして盛ならしめ榮あらしめた Eminentulo 諸氏並びに參加者諸兄弟に深甚の感謝の意を表し併せて大會後の札幌の狀勢を報告してこゝに筆をこらう。

## 分 裂 の 危 機 に 立 つ て

### UEA か IEL か

UEA の事務所をロンドンへ移すことが、全世界の delegitoj の 80% の支持によつて、最後的に決定されたことを、本誌十月號で報道した。ところがその後にはいたつて、問題は、さらた紛糾して、憂ふべき事情にたちいたつた。



かねて UEA の事務所を他へ移すことに反対してみたスイスの同志は、delegitoj の投票に際して、手續上に手落ちがあつたことを理由として、法律手段に訴へて、その移轉を不可能にした。また、それと同時に、UEA の新しい理事 Goldsmith がジュネエヴの事務所へ乗込むことを、同じく、法律手段によつて禁じた。

進むことも、退くことも出来なくなつた幹部は、最後の手段として、こぞつて、UEA を脱退し、新しく Internacia Esperanto-Ligo (IEL) を組織した。

この新しい組織は、法律的には、UEA とは、全く別のものであるが、實質的には UEA そのものであることを、その幹部は、事實を以て、主張してゐる。即ち UEA の statuto をそのまま用ゐ、UEA の幹部は IEL の幹部となり、komitatanoj, delegitoj をも、そのまま新しい組織へ移さうとしてゐる。また、ワルシャワで開かれる萬國大會も、IEL が、その主催團體であるかのやうにふるまつてゐる。

IEL は、直ちに活動をはじめると同時に、landaj asocioj, komitatanoj, delegitoj へ檄を送り、スイスの UEA へ脱退国を出したうへ、IEL へ参加申込書を送るよう勧めた。

それに對して、本會は、どういふ態度をとるか——それは、十二月上旬に開かれる理事會で決定されるはずである。書記部では、とりあへず、その旨をロンドンへ申し送り、それにあはせて、會費その他の技術的な點について、こちらの意見を述べておいた。

理事會の決定については、次號で報告することとし、ここには、この事件の概略について述べることにする。

今年 1 月 31 日理事 Robert Kreuz が、突然、病氣で斃れた瞬間に、この問題が起つたのであるが、その裏面にまつはる事情は、1922 年に開かれたヘルシンキ大會で、UEA が、國際エスペラント運動の公的機關と認められたときに、はじまつたと言つてよいであらう。

UEA は、スイスの Hodler 等によつて創立されたのであるが、1920 年、若くして死んだ Hodler は、その財産の大部分を、UEA の基金として遺した。

ヘルシンキ協定によつて、公的機關となつた UEA は、從來どほり、組織が個人單位であつたため、naciaj societoj (いまの landoj asocioj) との摩擦がはげしく、つひに、1933 年、naciaj societoj は結束して、UFE を創立するにいたつた。その結果は、ケルン協定によつて UFE 派の主張どほり、UEA は再組織され、landa asocio 單位となるにいたつた。

これでひとまづ、落ちついたやうに見えたが、この再組織は、Hodler の協力者であつた、Stettler, Privat 等、UEA 生えぬきの指導者たちと、UFE 事件の立役者である、イギリス、フランスの勢力との衝突をさらに大きくし、1934 年のストックホルム大會で、露骨に示された Privat, Jakob その他の排斥から、スイス派の總帥 Stettler の UEA 會長辭任となつた。このスイス派の總退却を、ひにくつて、“La Pirato” 誌は、“La kaso estas jam malplena, adiaŭ!” といふ漫畫を載せたが、これは、たしかに、一面の眞理であつた。それゆへ今度の事件に際して、移轉組は、「Hodler の遺した基金は、すでに、なくなつた——もはや、スイスに留る義務はない」と、憚りもなく言つてゐる。

しかし、さうした經濟的な理由の他に、根本的な理由として、スイス派と今度の IEL 派との間には、主義上の對立があつた。

Stettler の言葉をかりて言へば、スイス派の “internacia spirito” と IEL 派の “nacia spirito” である。言葉をかへていへば、理想派と現實派の對立である。

理想派總退却の後を承けて、ジュネエヴで献身的に働いたのが、UEA 改組と同時に、UFE



派の代表として、UEA 入りをした理事 Kreuz であつた。

Kreuz の後任として、幹部は、イギリスの Goldsmith を理事に選んだ。これには、UEA の事務所をロンドンへ移すことが条件とされた。このことを内定した幹部は、各國の komitatanoj へ、ロンドン移轉の可否を問ふた。有効票 21 のうち 11 が、賛成した。新理事はその就任の挨拶と同時に、各方面へ、この移轉のことを通知した。そして、UEA の Biblioteko は、ロンドンの Brita Esperanto-Asocio が、完全なものを備へてゐるといふ理由で、Wien の Internacia Esperanto-Muzeo へ寄託するといふことを發表した。

突然、スイス派が立つた。ロンドン移轉が statuto 違反であることを楯に、裁判所へ異議を申立て、UEA の所有物を國外へ持出すことを禁じた。

UEA は、實質は國際的機關であるが、法律的には、スイス國民法 §60 による法人である。そのため、スイス國內での移轉に關しては、その statuto に、その手續が書いてあるが、國の外へ移轉する手續については、當然云ひおよんでない。そこで、幹部が、實質的に解釋して komitatanoj の投票によつて決定しようとしたことは、責むべきことではなかつた。また、landa asocio 本位の現幹部が、landaj asocioj の代表者 komitatanoj の意志を重んじたのも當然であつた。

しかし、statuto 違反は、たしかであつた。この上は statuto を變更しなければならない。その變更は、delegitoj 全部の投票によつて決定される。幹部は、直ちに、delegitoj の投票を求めた。710:191, 即ち 80% の移轉支持がその結果である。

今度こそと思つたが、またしても、スイス派は異議を唱へた。投票の一部が飛行郵便によつてなされた、即ち、投票者に熟考の時間を與へなかつたといふことが、その理由である。これは、法律的には殆んど理由にならないかも知れないが、スイス派の目的は、statuto 擁護ではなく、UEA の移轉阻止である。だから、法律的に抗爭をつづければ、幹部派は勝つにしても、それには一年餘の日數と、多くの費用とがかかる。しかも、Goldsmith が、ロンドン移轉を條件に、理事に選ばれたことを、逆に利用されて、彼がジュネエヴへ赴く道も、スイス派によつて塞がれてしまつた。

調停の努力は、すべてむだであつた。つひに IEL の創立となつたのである。エスペラント運動は、いまや skismo の深淵に臨んでゐる。

では、なにゆゑ、かうした危険を犯してまで、スイスの同志は頑強に戦つてゐるのであるか。それよりもまへに、なにゆゑ、幹部は、ロンドンへの移轉を決定したのであらうか。

表面の理由は、經濟問題である。その裏面にどうした事情がひそむにしろ、大義名分は、經濟問題である。UEA は、この數年來、毎年赤字を出してゐる。ジュネエヴに、このままとどまることは、UEA が經濟的に自滅することである。ロンドンに、スイスよりも物價がやすい。ロンドンに移れば、1935 年の収入を維持するならば、1936 年は赤字を出さなくてすむであらう。——これが、ロンドンへの移轉理由である。

これに對して、スイス派は、3 ケ條の反對意見を述べてゐる。第 1 は、上に述べた法律問題。第 2 は、數字によつて、ロンドン移轉が經濟的に必ずしも有利でないこと。第 3 は、その基本金として巨萬の富を遺した Hodler の意志が、UEA をスイス國內におくことにあつたといふ道德的理由。

第 1 についての幹部の處置は、上に述べたとほりであるが、第 2 は結局水掛論となり、第 3 の道德論については、幹部は、上に挙げたとほり、道德的義務を脱れてゐることを述べてゐる。



この道徳的問題について、移轉派が『縁の切れ目が金の切れ目』のやうな亂暴な言葉を吐いてゐるのは、スイス派がその基本金を費消したのだといふことを諷刺してゐるのであるが、さうした理由によつて自らを泥の中へひきおろすまでもなく、もつと立派な理由を擧げることができたはずである。即ち、ケルン協定によつて、UEA は個人の意志を離れて、各國 *esperantistaroj* の共同の所有物になつたとき、さうした道徳的義務を離れたのであり、ストックホルムにおける總退却によつて、スイス派が、形の上では消極的に反抗したことは、實質的にはそれを確認したことになつてゐるのである。

したがつて、問題の焦點は經濟問題にかゝつてゐるのであるが、かりに移轉派の數字を正當と見ても、移轉派みづから、ロンドン移轉が經濟的に無意味であることを曝露した。即ち、「1935 年の収入を維持できれば」といふ假定に立つて、計算してゐるのであるが、この維持が困難であることは、*delegitoj* の投票にあたつて、移轉するか否を決定するには無力な抵抗に過ぎない 20% が明かに示してゐる。さらに、それよりもつと重大なのは、*komitatanoj* の投票の 21 票中の 10 票、即ち 48% といふ數字である。

しかもこの *komitatanoj* の數字が *delegitoj* の數字以上に重大であることは、*delegitoj* は幹部派の一方的な説明によつて投票したものが多いと認められるし、また、それぞれ、個人的意志によつて投票したものであるが、*komitatanoj* は、一般に、*delegitoj* よりも、運動の動向について、一層深く見てゐる者が多く、その投票はより批判的であり、また、*komitatanoj* はそれぞれの *landa asocio* の意志を代表してゐると見られる。さらに *komitatanoj* の背後の *landa asocio* の數についていふならば、43% の率は、かへつて、逆のものであるばあひが考へられる。

この *komitatanoj* の投票は、法律的に無効になつたとはいへ、その數字の意味重大のさを考へるならば、幹部は、慎重に行動しなければならなかつたはずである。しかも、11:10 は單純な賛成、反對でなく、賛成+*tolerebla*: 絶對反對の比であるだけに、問題は、より重大である。

かう考へるとき、ロンドンへ移轉することは、1935 年度の収入を維持することの困難を伴ふもので、移轉の唯一の理由であるはずの經濟問題からみて、無意味である。その上、その紛争中にスイスフランの相場が二割ほど下落した。この偶然は、移轉派の理由を決定的に抹殺するものである。

しかも、UEA の事務所のあるスイスが、永世中立國であることの大きな意味を考へるならば、これが移轉は輕々しく企てるべきでなかつたのである。

けれども、問題は行きつくところへ行つた。いまは、經濟問題を離れてしまつたのである。Stettler のいはゆる *internacia spirito* と *nacia spirito* の對立である。しかも、この *nacia spirito* は、Stettler の言つたそれよりも、さらに強い形になつてあらはれた。國際聯盟のそれのやうにスイス擁護派は、主として小國側であり、ロンドン支持派は、主として大國側である。そして、この大國派は、かなり、横暴にふるまつてゐる。

例へば、*komitatanoj* の投票 21 票 (22 票中 1 票無効) とあるが、*komitatanoj* の數は 28 である。残りの 6 票中少くも 2 票 (日本とブラジル) は棄權でなく、投票に間にあはなかつたのである。即ち、この 11:10 を 11:12 に覆し得る 2 票を無視したのである。

また、IEL 創立後は、*landaj asocioj* に對し、極めて高壓的に望んでゐる。例へば、各國別の會費の如き、*statuto* によれば、*malbonvalutaj landoj* に對しては、手加減を加へ得ることになつてゐるに係らず、從來の例を破つて、*landaj asocioj* に相談なく、勝手に決めてゐる。



(日本の會費のごときは、從來の MJ 1 圓 60 錢、MA 3 圓 80 錢を、MJ 4 圓、MA 10 圓のやうな拒絶的數字を以てしてゐる)。

IEL 結成は、エスペラント運動におけるクーデターである。エスペラント運動においては、このファツシヨ的方法は認められるべきでない。しかし、數個の大國が、これを支持するならば、それは、すでに既成の事實となるであらう。

UEA にとゞまるべきか、IEL へ行くべきか——それは、現實の正しい見通しの上に立つてなさるべきである。また、IEL の實力を認め、進んで、これに加はるにしても、萬國大會において多數の意志が、これを認めるまでは、それが私的團體であることを認めてでなければならない。(M)

## 動詞 FARI の用法

( 9 )

K. OSSAKA

§ 5 (ĉ. Frazeroj kun „fari“ en netansitiva senco (= „aranĝi“), *daŭrigo*.

Fari { **paŭzon** = paŭzi  
**interrompon** = interrompi  
**konatecon** = konatiĝi

**ekzercon** = ekzerciĝi, sin ekzerci  
(al si) **kutimon** = sin kutimigi  
(al si) **kuraĝon** = sin kuraĝigi

Tie ĉi mi **faros** malgrandan **paŭzon** kaj diros kelkajn vortojn pri .... (FK 283/20) 此處で一寸一と休みして(一寸話をかへて)……に就て一言申し上げます

Ĉe tio estas malpermesate **fari interrompon**. (Rn 26/-1) 途中でやめることはまかりならぬ

**Fari konatecon kun** .... (M 42/1) ……と知合ひになる、友達になる

Ŝi antaŭ momento verŝajne **faradis** gimnastikajn **ekzercojn**. (M 45/-9) つい今しがたまで體操をやつて居たのだと思はれた

Samtempe estos **farataj spiritekzercoj**. (FIII 85/10) 同時に精神訓練を行ふこととなる

La mastro **faris al si la kutimon** ne doni kandelojn. (Rn 33/18) 蠟燭はやらないことにきめ込んでゐる(やらぬのを習慣として了つてゐる)

Li **faras al si kuraĝon** kaj rektiĝas. (Rz 29/8) 勇氣を出してシャンとする (= sin kuraĝigas kaj sin rektigas)

Fari { **interkonsenton** = interkonsenti  
**interaranĝon** = interaranĝi

**ligiĝon** = ligiĝi  
**ordon** = ordaranĝi

Ni **faris** komunan **interkonsenton**, ke ni plu ne iru. (Rn 66/23) もう行かぬと云ふ申し合せをした (Ank. vd. Re 29-13: **fari ĵuran interkonsenton** 誓約する)

La **interkonsento** estis **farita**. (M 122/15) 契約が成立した

Kviete kaj nerapide mi butikis, ... kviete kaj nerapide **faris interaranĝon kun** la komercistoj. (Rn 51/-8) 平穩無事にあせらずゆつたりと店をかまへてゐたです……平穩無事にあせらずゆつたりと商人共と取引きをやつてゐたです

La **ligiĝo**, kiun ili **faras** estas tre malgranda rilate nian personon. (GD 5/-9) 此の連



中のやる縁組みたるや吾々の人物に關しては殆んどゼロだ

Sed mi estos tompita koko, se oni ne **faros ordon** (=ne metos, aranĝos, ordon). (GD 11/-5) 若し話をつけてくれないならおれはいゝ鴨になつたことになる

Multe kaj malfacile ili laboris en la pasinta semajno, por **fari ordon** en siaj domoj, frotpurigi la kuirejan ilaron, kion oni nepre devas fari antaŭ la paska festo. (Rn 38/14) 此の一週間と云ふもの家中の掃除片付け、臺所道具を磨き立てるのに上を下への大働き、尤も之は復活祭迄にはやらねばならぬ行事なのだ

Fari	<b>parolon</b>	=paroli	<b>diskuton</b>	=diskuti
	<b>interparoladon</b>	=interparoli	<b>disputon</b>	=disputi
	<b>kontraŭparolon</b>	=kontraŭparoli	<b>serenadon</b>	=serenad(kant)i

La patrino **faris** belan **parolon**. (F II 154/8; *ank. vd.* F II 97/15, F III 9/19) 母親は美事な演説をやつたのである

Alie mi bone instruus lin **fari tiajn paralojn pri** persono kiel mi. (GD 15/5) さもなかつたら吾輩の様な身分の者に就てそんな口をきくやうよくたしなめてやるのだつたが(とは『そんな口はきかぬやうにたしなめてやる』意の反語)

La **interparolado** en ili estas **farata** precipe en la lingvo neŭtrale homa. (OV 328/-6) 彼等仲間の會話は特に中立的な人類語で行はれるのである

Ni legas tiujn **kontraŭparolojn**, kiujn oni tiam **faradis** al Kolombo. (OV 277/-9; *ank. vd.* 279/17) 吾人は其當時コロムブスに對してなされた反對説を讀んでゐる

Ni **faru** nur **diskutadon pri** la projektoj, ne decidojn. (OV 366/31) 此の議案に就ては討論だけいたすことにし、議決はいたさぬことに致します

**Faru disputon kun** via proksimulo, sed sekreton de aliulo ne malkaŝu. (SS 25/-9) よしんば自分の近者親と爭論することはあるとも、他人の秘密は之をあばく事勿れ

La flugilhava kantisto **faras serenadon** (=kantas serenadon) al sia bonodora floro. (F II 1/5). 翼のある歌手(馬)はその友の薫る花に夜の調べを歌つて聞かせた

§ 5 (d). Frazeroj kun „fari“ en netransitiva senco, *daŭrigo*: **FARI** (=aranĝi) **MIENON, GESTON, SIGNON**.

Kaj li **faris mirigitan mienon**. (F II 141/-10) 驚いたと云ふ顔をした

Kaj ĝuste tie li **faris al mi gravan mienon**. (Rz 29/5) 丁度そのところで私にしかつめらしい顔付をして(氣取つて)みせた

La virino **faris malkontentan mienon**, kvankam ne tiel koleran kiel antaŭe. (M 220/-2). その女は前の様に怒つた顔ではないが、氣に入らんと云ふ面持ち

Fraŭlino Bronislavo **faris rigidan mienon**, kunmetis la manojn sur la brusto kaj stariĝis silente. (M 109/17) プロニスラヴ嬢は不愛想な面持ちをして手を胸の上に重ねて黙つて立ち上つた(顔をこわばらすとは不満、呆れた表情)

Se du personoj sin renkontis, ili ĝemis kaj **faris tiajn ekstazajn mienojn**, kvazaŭ ili estus en ne tute normala stato. (F II 28/1) 二人の人が出遇つたとするとその二人はため息をつきポカンとした顔付をする様は少々どうかしてゐると思はれる位

Kaŝu malbenon kaj **faru bonan mienon**. (P 537) 文句云はずに神妙にして居れ(弱者



は文句云はずによいお顔をして居らねばならぬものの意の諺)

Ili faris mienojn kvazaŭ ili laboras. (FK 20/5) 働いても居らぬ癖に働いて居る様な風をしてゐた

Fari tian fizionomion. (Rz 9/16)=arangî tian fizionomion (Rz 9/-9) そんな顔付をする

Li faras al ŝi amajn okuletojn. (GD 6/-2) 色目を使ふ

Li simple faras al vi grimacon, kiam vi deturniĝas. (Rz 20/9) 君が向ふをむくと顔をしかめてみせる(日本なら『舌を出す、赤んべえをする』と云ふ所)

〔註〕 vizaĝo (身體の一部たる) 顔; mieno (顔の上に表はれる表現) 顔付; trajtoj (顔の造作たる) 目鼻だち(依て普通複數形で用ひられる)

Ili faradis ridindajn gestojn. (Rt 54/-1) 滑稽な身ぶりをやつてゐた

Li rigardis ŝin komplate kaj mirante, sed faris nen'an konsentan geston. (BV 73/15) 女を氣の毒さうに且つ驚いて眺めたのであつたが同感と云ふ氣ぶりは見せなかつた

Tiuj fantazie kaj tro ne sufiĉe vestitaj virinoj, inter kiuj estis kelkaj tre belaj, faradis la plej malĉastajn gestojn. (Rn 23/22; ank. vd. H 86/1) 此の意氣な着物ではあるが頗る以てはだけた身なりをした女共はひどくみだらがましい所作をしてゐた

La homo estas freneza. Li faras gestojn, kiel ĉe la malsano de Sankta Vito. (Rt 22/9; ank. vd. M 202/9) 此の男は氣がふれてゐるのだ。まるで舞踏病にでもかゝつた様な身ぶりをやつてゐる

〔註〕 Sankta Vito [Vitus] は古傳説によれば偶像教徒 Sicilio の貴族の子であつたが基督教に改宗、ために父によつて denunci され殉教の苦難にあふ。その身に呪はれてとりつけられた病の一が koreo (舞踏病) であつたと云ふ。

Spiegelberg, kiu tutan tempon en la angulo de la ĉambro faradis pantomiojn de projektofaranto, suprensaltas sovaĝe. (Rt 22/15) その間ぢう部屋の隅で劃策家の所作事をやつてゐたスピーゲルベルグは荒々しくとび上る

Kiu faras signon per la okuloj, tiu intencas malicon, kiu faras signon per la lipoj, tiu plenumas malbonon. (SS 16-30) 目くばせして人に知らず者は悪たくみを企つる者なり、唇をしかめて合圖をする者は悪を遂ぐる者なり

Li faris al ŝi signifoplenan signon per la okuloj. (Rn 13/23) 彼は意味あり氣に彼女に目くばせした

Nu, faru la signon de la kruco, diris la pastro. (FK 89/4, ank. vd. FK 88/-1) さあ、十字を切れ(指で胸の上に十字架の形を描くこと)と牧師が云つた

## TRADUKAJ EKZERCOJ

- |                                    |                                  |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 1. 兩政黨間に妥協が成立した                    | 6. 彼の演説は極めて退屈なので聴衆は皆あくびのしつゞけであつた |
| 2. あんな悪漢と附合つたのが彼の馬鹿だ               | 7. 逃げろと目くばせをした                   |
| 3. しつかりしろ(勇氣を出せ)                   | 8. 彼はひどく立腹してゐるから何とかせねば納まるまい      |
| 4. 父は僕の顔さへ見れば何とかかとか文句を云ふことにきめ込んでゐた | 9. 彼は勉強すると見えてよく進む                |
| 5. 契約は書面ではなく口頭でしました                |                                  |



10. どうぞお樂に
11. 今晚はお祝に大にやらう
12. 彼は口を拭つて知らん顔をしてゐる
13. 敵は和睦をする氣がないと見える
14. あの人はいつも即席の演説がうまい
15. あの人に頼んだのが失策だつた
16. 僕は彼と仲直りした
17. 彼と知り合つたのが悪縁
18. 君は友人に對して水臭い
19. 僕はまだ演説をしたことがない
20. 三遍廻つて煙草にせう
21. それを聞くと彼は飛びすさつた
22. 逃れおぼせたものはたつた三人
23. あの奥さんは新調の着物を見せびらか

しに來たのだわ

24. 御兩親の膝下でよいお正月を御迎への事と存じ上候
25. 教員が生徒と組んで校長を攻撃した
26. さう云つてやつたら奴はいやな顔をした
27. 此の夏休暇は何をしたら一番面白く暮せるかしら
28. 彼は一と聲叫んで絶望の身振をした
29. 彼は知りもせぬ癖に何でも知つたかぶりをする男だ
30. 聴衆がひどく騒ぎ立てるので彼は屢々立ち往生をした

## 落穂拾い

KAWASAKI-N.

ある必要があつて *mangoĉambro* のごとき *-o-* の形の例を Z. の著作全部から全部拾いだす仕事をした。だいたいこゝろ仕事は私に好かない。けれども研究の發表されたものがない以上どうしても自分でやつてみねばならない。仕事をしてみて氣のついたことを述べる、仕事の内容そのものでなく、仕事の方法についてである。

私のとつた順序は、目で *teksto* を探してみる、讀まずに形にのみ目をつけるのだ。みつかつたのに色鉛筆で印をつける。1ページすめば、印を目あてにカードにとる、こんなカードが全部できあがると、それを分類して原稿に書く。以上の動作が正確に行れわたら、結果は正確だ。だが悲しいことにこんな *rezonado* を要しない仕事がかえつて多くの誤をおかすのである。目でみてゆくうち *-o-* に以て非なるものにびつくりする。Petroselo, korporacio; sarkofagoj など。Biblio に多い *buĉofero*, *brulofero*... *litkovrilo* などですら *-o-* かと思ひかける。行の終りに *povo-*, そして次の行の始めに *scias* とある (Orig. Verk. p. 405) を採ることに氣がつきにくかつた。

ある行 (*linio*) に 1 つ *-o-* がみつかりと安心 (?) して、その同じ行にまだ *-o-* があるのを見ないでしまふ。1 行上か下にあるものもこれと似た心理でよく落ちる。カードにとるときに誤り *ajn-* であるべきを *-a* と書いたりすること。ページ数を違わすこと。これは奇数ページにあるのを、カードに書くとき本のページ数をみるのに偶数ページをみて、それをそのまま正しいと思ひこんでしまふのである。印だけ先につけることが 1 ページ全部終つたとき、その印をたよりにカードにとつてゆくと、その印をみのがすすなわち *-o-* を見のがしてしまふ。Teksto の不正確。Gimnazio p. 67 に *katogratanta* とゆうがあるので、それをカードにとろうとして、「おかしい言葉だな！」とそのあたりを讀んでみると：「...ne ekzistas ŝafo tondata, ne ekzistas hundo bojanta, ne ekzistas katogratanta, ne ekzistas muso mordetanta...」。だからこれは *kato gratanta* の誤植だときめた。(ただし Dua eld. には離してある) これと逆の



例が Genezo p. 94 にある: 「... sed neniu povis signifo klarigi ĝin al Faraono.」文章を意味を讀まずに -o- の形にばかり注意しているのだから、これなど通過してしまつたのだが、後でまたみたときに偶然氣がついた。signifoklarigi でなければ文法が正しくならない。

私わ目で 1 とうり Z. の著作全部をみて、-o- を拾いだし、大丈夫だと思つたが、念のため 1 度みてみようをやつてみたら、第 1 回にみのがしのがどんどんでてくる。Povosci' の統計が佐々城、Paroladoj の Rimarkoj に載っているのを思いだして、自分のとつた povosci' の總計と比べてみる。著作によつてわ自分の數字が佐々城の數字より少いのがある。こんな數字わ上手だからますます多くなるとゆうようなものでない。50 あるものなら 50 あるので、50 と探しだすのが正確である。49 なら 1 つみのがしているのである。例: Rabeno de Bahrah わ佐々城は 3, 私わ 2. 「これわいかん」と調べてみると 1 つみつかつた。だが實わ私の teksto にちゃんと印がついてある、すなわち私わみのがさなかつたのだが、カードにとるときとり落したのだ。これわくやしくてしかたがない。ところで Marta におかしなことが起つた。佐々城わ 13 だが、私わ 22 だ。あまりに數がちがいすぎる。さらに佐々城の Z. 全部の合計わ 126 だが、佐々城の出した各本一々の數字を合せてみると 116 である。どこかに誤植があるのでなければならぬ。ここでまた思いだした、この單行本以前に Lingva Kritiko, 1931 に Rimarkoj だけ載せている。これをだしてみたら Marta わ 23 とある。これで解決した。Marta を 23 にすれば、合計の 126 が生きてくる。單行本にでた Marta の 13 わはなはだ malfeliĉa な誤植である。Teksto わやはり 2 つ以上みなければならぬか——Z. 著作わもとよりだが、Z. 著作を研究した Rimarkoj すらもかと——感じたくらい malfeliĉa だ。佐々城わこれで解決したとして、弱つたのわ私のほうで、逆にすくなくなつて、1 つたりない。目でみるだけでわ駄目だと觀念して、なにかよい方法がないかと考える。讀書格子を使つてみる。こんな形を切抜いて、行 1 つにあてる。これだと、探している行だけが目にはいり、他のいらぬ上や下の行が全然かくれる。注意を 1 行だけに集中することができるから、目の疲れもすくないし、速度も早いし、みおとしがすくなくなる可能性の多いことがもつともよい。この方法で Marta をみてゆく。povosci' のもの 1 つみつかる。「これで安心」、と思ふ間もなくまたみつかる。とうとう 27 になつてしまつた。さらにカードから原稿に書くときの誤がある。がこれわ 2 人以上かかつて原稿とカードを讀み合せれば誤をかなり防げる。私は大阪のある偉い esperantisto にやつてもらつた。私がカードを讀んでゆくのを、その人が原稿をみていて誤を直してくれたがこれでもみおとしができる。家え歸つて私がまた自分で照し合せてみたら、カードに pordofermite とあるのが、原稿にわ gardofermite となつている。その偉い人と讀み合せをやつたとき、私がカードを gardofermite と讀み誤つたか、あるいわその人が原稿の誤に氣づかなかつたかである。pordofermite のちよつと前に gardodejoris があるので、そのために私が書き誤つたか、その人がみ誤つたか？

Trovloko が書いてなくとも、ある著作にわこれこれのものがいくつと統計をとつてくれているものがでていると、後からやるものわそれを provilo とすることができる。「1 つぐらい自分のほうがすくなければ、その統計をとつた人に聞けばすぐわかるじゃないか、なにもやせがまんをはつて再び仕事をやり直す必要わなからう」とゆう人があるかもしれぬ。なるほどしかりである。もし povosci' 1 つの問題だけに限るならばだ。私のいまの場合わ povosci' だけでない、-o- のものを全部探しているのである。povosci' 1 つ聞いてそれわそれで解決しても自分の仕事の杜撰の問題が残る。povosci' 以外にもまだ落ちてゐるものがあるかもしれぬ。そ



れが恐い。だからすでに發表された成績わできるだけ利用することわしても、自分の仕事そのものに對してわ自分が責任を負わねばならない。自分が得心するところまでやらねばならない。(17 febr. 1936)

附記: -o- に興味を持つたのわ獨習書を讀んだ當時からだ。數年前一度原稿ができあがつたが、kontroli しないでそのまま捨てておくうち、その紙が行方不明(ただし家の中にあるらしい)各 tekstoj にわ印をつけてあつたので、それを調べ、もれたるものを拾つて上記の方法で再びこしらえた。(19 nov. 1936)

## アフリカ莊園の物語

エスペラント譯泰西文學鑑賞・4

萬澤まき子

晝は灼熱の太陽を浴びて燃える赤い砂地にさゝやかな灌木やサボテンが僅かばかりの緑をみせ、夜は冷たい夜風の中に冴えきつた月が銀色の光を投げる南アフリカの莊園。そこに三人の白人の子供が居る。莊園の持主の娘で、英國人である父親の死後、野蠻なボーア人の繼母に世話されてゐる雀斑だらけの少女 Emilio, 彼女の従姉妹で大きな瞳をした綺麗な少女 Lindino, 莊園の監督をしてゐる老ドイツ人の息子 Valdo。その三人が仲良く、ボーア人やホツテントット人、南阿黑人達の中に、荒々しいアフリカの空氣の中に生長した。

1862 年の恐い旱魃の夏。12 歳になつた二人の少女は淋しいアフリカの生活を嫌惡しながら夫々の未來を夢みてゐる。氣立のいゝお人好しの Emilio は一人前の女になつて結婚することを待焦れ、激しい感情と強い意欲を持つ Lindino は學校に行つて勉強し、世の中のあらゆる事を知り盡して立派な女性になりたいと思つてゐる。それが財産もない孤兒の唯一の道だと賢しくも彼女は信じてゐる。少年 Valdo は 15 歳の逞しい無口な羊飼に成長した。彼はもう幼い頃のように人間の罪深さに泣いて深夜の平原で神の宥しを祈つたりなどはしない。併し彼の心は常に目醒めて神と人類を正しく見やうとしてゐる。

ある日、この莊園を Bonaparto Blenkins となのる男が訪れた。禿頭で赤鼻の醜い男であつた。Valdo の父親 Otto は神を信じ人を疑はぬ善良な老人だつたので、襤褸をまとつた Bonaparto の駄注螺を少しも疑はずに、宿を貸したり、女主人の Suzano にとりなしたりしてやつた。狡猾な Bonaparto は甘言をもつて Suzano の歡心を買ひ、徐々に勢力を得、遂には農場監督の實權を握るため奸策を弄して Valdo の留守の間に Otto を莊園から追放した。老 Otto は悲しみながらも誰をも恨まず、住なれた小屋を去ることになつたが、彼はその夜誰も知らぬ間に安らかに死んでしまつた。二人の少女この不正を明らかに見た。Emilio は愛する老人の不幸におろおろ泣いてゐたが、Lindino は子供の無力さに激しく唇をかみ、一日も早く大人になつてこの世の不正に敢然と闘ひたいと思つた。

父の死以來 Valdo の敬虔な心が神の存在を否定しはじめた。鈍重な彼は益々重しく口をつぐんで自分の魂を見つめた。賢い Lindino すらも彼の暗い心に近寄ることが出来なかつた。Bonaparto は Valdo を憎んだ。彼の白い眼は絶えず Valdo を追廻し、遂に或る日、些細な事を理由に Valdo の脊が裂けて血を噴くまで鞭を浴せかけて物置小屋に押込めた。Valdo は



半死の状態で一心に神に祈つた。然し神は憐れな少年の祈を聞かなかつた。この時も Emilio は涙を流し、Lindino は唇をかんだ。無力な彼女等が爲し得たことは傷けられた Valdo の脊に優しい接吻を與へることだけだつたから。

ポーア女の Suzano は Bonaparto が自分を熱愛してゐると信じ、暫くすれば Emilio の父親の遺言にきめられた四年間の寡婦生活の義務年限もきれるので、その時は彼と結婚してもいいと思つてゐた。その頃妹の Katrino が訪れて彼女の許に居た。Katrino は莫大な財産と大莊園を持つ若い娘で少しお目出度く出来てゐる。慾深い Bonaparto はこの娘に眼をつけた。或る時彼は Suzano の留守を幸に、英語の通じない娘に手振身振で自分の戀を打明けた。それを屋根裏に居た Suzano がみてしまつた。嫉妬に眼をくらませた彼女は、矢庭に羊肉の漬物樽を彼の頭の上にぶちまけた。喫驚仰天した Bonaparto は後をも見ずに逃げ出し、その後永久に姿をみせなかつた。

\*

\*

\*

人間の心には外界と違つた獨特の時と季節とがある。その一季毎に子供の心は新しい成長をとげ、新しい世界を發見し新しい疑ひに苦しみ、そして新しい大地の上に新しい空を仰ぐ様になる。

Valdo も Emilio も四年の間に夫々の成長をとげた。Valdo は水牛の様な 19 歳の青年、Emilio は滑稽な程太つた 16 歳の善良な女。

Valdo は或る日見知らぬ男にあつた。30 歳前後の裕福さうなフランス型の紳士で、彼は思想的渾沌の中にもがいてゐる Valdo のひたむきな心に興味を感じた。この若い無神論者は Valdo の心に燃えはじめてゐた眞理への渴望の火に油を注いで、名前も告げずに立去つた。

美男の若い英國人 Gregorio がこの莊園に住むことになつた。彼は一目みた時から、太つちよの Emilio を狂氣の様に愛して彼女に求婚した。彼女は一寸躊躇したがそれでも快くその手を彼に與へた。

四年間町の學校に行つてゐた Lindino が卒業して歸つて來た。益々美しく成長したこの従姉妹を、Emilio は尊敬と感嘆の眼をもつて見上げたが、彼女は結婚を輕蔑し Gregorio を無視して人の好い Emilio を淋しがらせた。Lindino は何時も Valdo と一緒だつた。彼女は無口な重々しい青年の中に自分の悩みの共鳴者を見出したのである。四年間の學窓生活の間に彼女が得たものは、人間の社會の不潔と虐げられた女性の爲に痛む心だけであつた。人間の平等、男女の地位、結婚の意義、笑ふべき男性の騎士道等を彼女は鋭い言葉で批判した。Valdo は黙々とそれに耳を傾けた。

Emilio の繼母 Suzano は 30 歳を遙かに過ぎた恐るべき脂肪の塊であつたが 19 歳の若い鰥を三度目の夫に選んでこの莊園を去つた。Gregorio は Lindino の尊大さに氣を悪くしながらも、彼女が親しくする Valdo に嫉妬を感じてゐる。Valdo も Gregorio を嫌惡し、この男がこの莊園の主人になる前に此處を去らうと心に決めてゐた。

遂に Valdo は人生を味ふために住みなれた小屋をすてゝ放浪の旅に出た。一方、Emilio は婚約者の心が段々と Lindino に傾いて行くのを見た。彼女は理由も並べず、愚痴もこぼさずに Gregorio との婚約を解消した。自由になつた Gregorio の心は益々 Lindino に傾倒した。彼が思切つてその意中を打明けた時、意外にも Lindino は彼の申出を受けて結婚を承諾した。但し、彼の如何なる奉仕に對しても彼女に代償を期待しないといふ條件の下に。

然し、結婚の日が迫つた或る夜、Lindino は密かに莊園を去つた。學校時代からの求婚者で



あつた男に手をとられて、周囲の者の眼から永久に姿を消すために遠くトランスバールへ去つた。社會から獨立の道を與へられず、結婚によつてしか生きて行けぬ女性が、なまじつか社會の不合理に目醒め、自由に憧れたことは大きな不幸である。結婚によつて女性に強ひられる束縛を脱れるために彼女が最初に選んだ道は、彼女の命令でさへあれば三年間でも命ぜられた方に向いてゐる様な Gregorio との結婚であつたが、その企てをも決行する勇氣がなかつた。それは淋しげな Emilio に對する思ひやりでもあつたのだらう。迷ひ、もがき、悩み疲れ、遂に彼女はたつた一人の敬愛する男の手に身を委ねたが、しかもなほ結婚を否定して、より自由な形式をえらんだ。限りなく冷たい理性、あくまでも硬い自我、そしてその壓迫に堪えかねる心。Lindino はそれを丘の上の Otto の墓石に泣いて訴へた。莊園を去る夜、夜霧にぬれながら。

Lindino の失踪後、Gregorio は心を置き忘れた人の様であつた。遂に彼は Lindino の足跡をたづねるために旅に出た。

廣い莊園に Emilio は獨り残された。黒人やホツテントット人の召使を相手に、永久に歸らぬと言ひ置いて旅に出た人々の歸りを彼女は黙々と待つてゐた。

Gregorio が旅立つてから 7 ヶ月経つた嵐の夜、Valdo が 1 年半の放浪から歸つて來た。彼は Emilio の部屋の暖い火の前で直ちに手紙を書きはじめた。荒い波浪にもまれもまれた困難な 1 年半の経験を詳しく書き綴つた。それを彼の唯一の理解者である Lindino に送らうと思つて。然しそれは無駄な手紙であつた。何故なら、Lindino は既に死んでゐたから。

Gregorio は鬚を落して瘦せて歸つて來た。

彼は町から町へ、村から村へと人々の記憶を頼りに Lindino とその同伴者の足跡をたどりたどつた。然し、手繰つて來た糸は或る處でぷつつりと切れて、彼のあらゆる努力にも拘らずそこから先の消息を知ることが出来なかつた。尋ねあぐんで疲れた身體を休めた小さな宿に圖らずも Lindino を發見した時、彼女は既に死に臨んでゐた。彼女はたつた一人でその宿に來て 8 日目に小さな小さな赤ん坊を産んだ。赤ん坊は 2 時間して死んだ。彼女は近づいて來る死の足音を聞きながら、病苦と孤獨と寂寥を勇敢に堪えしのんでゐる。宿の女主人にこの話を聞き、新しい看護婦が必要な事を知ると Gregorio は黙つて宿を出た。夕方、彼は鬚を落とし女の服をまといつて再びその宿に現れ、首尾よくの看護婦になりすました。綺麗な彼の顔は婦人服によくうつたし、切ない愛情の唯一の表現である彼の看護ぶりは醫者をすら驚かせた。可愛想な病人は苦痛も訴へず、不平も漏さず、只黙つて横たはつてゐる。然し、深夜、彼女が病苦の堪難さを神に訴へて泣いてゐるのを彼は扉越しに聞いたことがある。彼女に去られた男は火の様な言葉を手紙に連ねて結婚を請ひ結婚後の絶對的な自由をも約束したが、彼女は優しい言葉でそれを拒絶した。彼女が一生涯を通じて憧れ求めたものは、自分よりももつと高く、もつと力強い何かであつたのだ。斯くして Lindino は Gregorio の看とりを受けながら、彼を彼と知らぬまゝ靜かに死んで行つた。

Gregorio が Emilio にさう物語つた夜、Valdo は Lindino の夢をみて夜半に目をさました。美しい夢であつた。然しそれは失つた人への切ない追慕の心を一層痛ませるばかりだつた。もう一度愛する人の小さな姿を見、きれいな聲を聞きたいと切望する心に、色々な聲が入亂れ戦合つた。未來、不死、永遠、それは一體何だらう？

Gregorio と Emilio は結婚することになつた。Emilio がそのことを Valdo に告げた時、彼は黙つて彼女の額に接吻した。輝かしい夏の午后であつた。黄色い太陽の光を浴びてアフリカの砂漠に生えた青草が靜かに生の歡びを呼吸してゐる。Valdo は塀にもたれて自然の美しさに



みとれた。それは人に忘れられた平和であつた。野心もなく、憧れもなく、このまゝ此處に靜かに生き永らへて、新しい時代の來るのを眺めたい、と彼は思つた。

\*

\*

\*

原作者 Olive Schreiner は最も有名な南阿の女流作家で、1885 年に、ケープタウンとヨハネスブルグの間に横たはるカルーとよばれる平原の中に生れた。父は宣教師であつた。彼女は近くの村の私設學校で暫く勉強し、18 歳頃からボーア人の家庭に家庭教師として働きはじめた。其處で彼女は病弱と闘ひながら仕事の暇々にこの有名な著作、英文學中の異彩と稱される „The Story of an African Farm“ の大半を書きあげたのであつた。

幼少の頃から彼女の中に燃えてゐた不正に對する憎惡や正義に對する確固たる意志は、長じて彼女を熱烈な平和主義者にした。1899 年に起つた南阿戰爭に際して、彼女は英國政府に對し熱心な反戰運動を行つたため、當局の嚴しい壓迫を受けたりした。恐るべき世界大戰がどんなに彼女の心を痛めつけたかは想像に難くない。

1920 年に彼女は若くして死んだが、平和主義者であると同時に女權論者としてもその一生を通じて女性の權利のために闘つた。彼女が一生涯良人の姓を名のらず、却つて良人が彼女の姓を用ひたことは面白い事實である。

物語中の女性 Lindino が外面的にも内面的にも彼女自身の姿であることは疑ひもない。少年 Valdo は他にモデルがあるとはいふものゝ、これも大部分は彼女自身の分身であるといはれてゐる。彼女の姓を用ひることをよろこんだ彼女の良人が、Gregorio のモデルであるか、或ひは Lindino の同伴者であるかは残念ながらわからない。

この作中最も印象的な、特異なものは（私の考へでは）、幼い子供の精神生活の描寫であらう。少年 Valdo の經驗する幼い思索の世界は吾々無宗教の子には想像も出来ない。第二卷の最初を私は僅か數行の氣障な言葉で表したが、原作に於ては *Tempoj kaj Sezonoj* と題して堂々 20 頁に亘るもので、6 歳から 11 歳に到るまでの子供のデリケートな心の動き、宗教的な悩み、關心の對象の變遷等が實に明確に描寫されてゐる。この部分だけでも一讀に價すると思ふ。

## Skizo de la lingvo internacia “Zilengo”

D-ro Asajiro OKA

Laŭ peto de la redakcio mi donas sube fundamentojn de la lingvo “Zilengo” elpensita de mi en 1889 (t. e. du jarojn antaŭ ol mi konatiĝis kun Esperanto).

La alfabeto konsistas el 22 literoj: *a b c d e f g h i j k l m n o p r s t u v z*. La elparolo de la literoj estas tute la sama kiel en Esperanto, krom la litero *c*, kiu prononciĝas kiel *ĉ*.

La substantivo kaj pronomo finiĝas per *a, e, i, o, u*. La finiĝo *a* signifas nominativon, *i* genitivon, *e* dativon, *o* akuzativon. Sendependaj vortoj finiĝas ankaŭ per *o*. *u* estas la vokativa finaĵo.

Ekz. *Kavalo* = la ĉevalo. *Kani* = de la hundo. *Kate* = al la kato. *Patro* = la patron. *O fratri!* = o frato!



Gramatika nombro ne ekzistas; tial la sama vorto servas kiel singularo kaj pluralo sendistinge.

Ekz. *Kavalo*=la ĉevalo aŭ la ĉevaloj. *Kane*=al la hundo aŭ al la hundoj. *Homo*=la homon aŭ la homojn.

Personaj pronomoj estas jenaj: *Za*=mi aŭ ni, *va*=vi, *la*=li aŭ ŝi aŭ ili. *Zi*=mia aŭ nia, *vi*=via, *li*=lia aŭ ŝia aŭ ilia. *Vo*=vin, *lo*=lin aŭ ŝin aŭ ilin.

La adjektivo finiĝas per *d, f, k, l*. La adjektivo ne havas deklinacion.

Ekz. *Grand kavalo*=la granda ĉevalo aŭ la grandaj ĉevaloj. *Bel floro*=la bela floro aŭ la belaj floroj.

La adverbo finiĝas per *m, n, p*. Ekz. *rapidem*=rapide, *herin*=hieraŭ, *trop*=tro.

La verbo finiĝas per *r, s, t*.

La indikativo finiĝas per *s*, la kondicionalo per *t*; la prezenco per *is, it*, la preterito per *as, at*, la futuro per *os, ot*. La pasivo formiĝos per la aldono de la finaĵo *ur*. La infinitivo finiĝas per *ir*, la imperativo per *er*.

Ekz. *Za vo amis*=Mi amas vin, aŭ ni amas vin. *Va le donas libro*=Vi donis al li (aŭ al ŝi aŭ al ili) la libron (aŭ la librojn). *Vidas va il homo ka vendos domo?*=Ĉu vi vidis la homon kiu vendos la domon? *Sim za lo vidas herin*=Jes, mi vidis lin hieraŭ. *Non, za non lo vidas etiam*=Ne, ni ne ankoraŭ vidis ilin.

Kiel oni vidas supre, la artikolo estas *il*, sed oni povas konsideri ĝin kiel unu el determinativaj adjektivoj. La aliaj determinativoj estas *sil* tiu-ĉi kaj *til* tiu aŭ tiuj. Ekz. *Kia ve donas sil libro?*=Kiu donis al vi tiun-ĉi libron? *Il puero ke va lo donas herin.*=La knabo al kiu vi donis ĝin hieraŭ.

La plej ofte uzataj verboj estas: *ir* esti, *hir* havi, *vir* voĉi, *pir* povi, *dir* devi. Ekz. *La is zi sororo*=Ŝi estas mia fratino. *Has vi patra bel floro?*=Ĉu via patro havis la belajn florojn? *Pos za vo vidir sil vesperem?*=Ĉu mi povos vidi vin hodiaŭ vespere? *Puero dis obeir patre.*=La knaboj devas obei al la patroj. *Za ne pis legir til libro*=Mi ne povas legi tiun libron.

*Perdas va jam fransik libro ko za ve donas herin?*=Ĉu vi jam perdis la francajn librojn kiujn mi donis al vi hieraŭ?

*Si puera kane morditur, matra plorot.*=Se la knabo estus mordata de la hundo, la patrino plorus.

En la lasta ekzemplo *kane* egalas "inu ni" en japana lingvo.

*Za*, egalas "ŭare-ŭare", "ŭatakusidomo", "ŭarera", "ŭagahai". Kiam oni volas montri la unuecon de la parolanto, oni havas nur aldoni la adjektivon *sol* aŭ *unik*. Ekz. *Za sol has alid opinio.*=Mi havis alian opinion. Se oni volas montri kontraŭe la multecon de la parolanto, oni povas uzi la vorton *socio*. Ekz. *Zi socio vas hir pekuno.*=Ni velis havi monon.

Koncerne la duan personon oni neniel zorgas, rimarkinde, je la nombro de la adresatoj: la angloj diras "you", la francoj "vous", la germanoj "Sie" kaj la esperantistoj "vi".



Kiam mi provis unue, antaŭ kvardek-sep jaroj, konstrui la novan internacian lingvon kiun mi nomis "Zilengo", t. e. nia lingvo, mi pr'pensis detale pri la maloportuneco, kiu eble okazos, se oni forĵetis la gramatikan nombron de substantivo, kiu ja ne troviĝas en la japana lingvo. Al mi ŝajnis ke la neekzisto de la gramatika nombro neniel malhelpas la uzadon de la lingvo, sed kontraŭe simpligas enorme la gramatikon. Kial diri "unu homo", "du homoj"? La vortoj unu kaj du montras sufiĉe la nombron de la homoj. Okaze oni devas diri "homo aŭ homoj", ĉar oni ne scias kiom da homoj tie troviĝas. Ĝis nun neniu el la multnombraj elpensintoj de internaciaj lingvoj songis pri la forĵeto de la gramatika nombro de substantivo, simple ĉar ili estis senescepte eŭropanoj. Ili memorigas min pli la fiŝvendistoj, kiuj ne sentas la odoron de fiŝoj, ĉar ili neniam vivadis en senodora mondo.

La vortradikoj estis prenitaj plej eble de la latino.

### [Rimarko de la Redakcio]

Kiel vi bone scias, D-ro A. Oka, mondfama zoologo, estas tre malnova kaj fervora esperantisto en Japanujo. Li estas eble la unua en nia lando, kiu ekkonis kaj lernis Esperanton. Kaj antaŭ ol li ekkonis Esp., li jam elpensis internacian lingvon nomata "Zilengo." Li estas eble sola japano, kiu elpenis internacian lingvon. Kaj tial la redakcio petis la doktoron prezenti la skizeton de la strukturo de Zilengo, kiu nepre interesos samideanojn.

## Moderna Edukado en Japanujo

Ŝoiĉi NIKKAŬA

La moderna kulturo en Japanujo ekpaŝis en 1868. Tiam la feŭdismo sin enfermis en pasinta paĝo, kaj oni efektivigis senekzemplan grandan reformon. Japanujo komencis sin loki inter civilizitaj nacioj en la mondo. Tion oni nomas la Restarigo de Meiĵi.

Ĝia gvida spirito estas la 5 artikoloj de la Imperiestra Ĵuro (五箇條御誓文) de la imperiestro Meiĵi:

1. Ni kunvokos konsilantarojn kaj regos la popolon laŭ la ĝenerala opinio.
2. Homoj de superaj kaj malsuperaj klasoj sen distingo unuiĝu en ĉiuj entreprenoj.
3. Civilaj oficistoj kaj militaj oficiroj estu en akordo kaj la tuta popolamaso estu tiel traktata, ke ĝi povu atingi siajn celojn kaj sentu nenian malkontenton.
4. Malnovaj senindaj moroj kaj kutimoj estu detruitaj, kaj la popolo marŝu laŭ la grandvojo de la ĉielo kaj la tero.
5. Scio estu serĉata inter la popoloj de la tuta mondo, kaj la Imperio estu kondukata ĝis la zenito de prospero.

Baze de tio en 1872 oni proklamis la Dekreton de Eduksistemo (學制), kaj komencis modernan edukadon sub ŝtata kontrolo, kaj la edukado en Japanujo rapide progresis.



Eŭropaj ideoj torente alvenis, tial ŝajne detruigis la kulturo, kiu gvidis la nacion dum la pasintaj du mil jaroj. Unue la utilismo de la skolo de Spencer regis la edukistan rondon. Samtempe la disvolviga metodo (開發主義) de Pestalozzi okupis multan atenton.

En 1879 estis proklamita la Dekreto de Edukado (教育令), kiu anstataŭis tiun de eduksistemo. Ĝi specigis lernejon en elementan, mezan, instruistan lernejon, kolegion universitaton k. a. La antaŭa dekreto sekvis ekzemplon de Francujo, kaj la nova sekvis tiun de Anglujo kaj Usono.

En 1886 Edukada Ministro Jurei Mori entreprenis grandan ŝanĝon de la eduksistemo kaj oni publikigis dekretojn pri universitato, instruista, elementa, kaj meza lernejoj (大學令, 師範學校令, 小學校令, 中學校令), kaj ĝeneralajn regulojn de lernejoj (一般學校令). Tiujn oni nomas Dekreto pri Lernejo (學校令). Japana eduksistemo komenciĝis per la Dekreto de Eduksistemo, kiu sekvis eksterlandan ekzemplon, sufiĉe japaniĝis per la Dekreto de Edukado, kaj firmiĝis per Dekreto pri Lernejo. De tiam ĉiuj dekretoj kaj leĝoj pri edukado sin bazis sur ĝi.

Progresema kaj konservema ismoj ĉiam kunstaras. Ankaŭ en Japanujo la nova kaj malnova ideo ĉie malpaciis, kio ĉirkaŭ 1887 atingis sian supron. La nacio ne sciis, kiun ĝi prenu, kaj la socia ideo estiĝis sub minaco de kaoso. Tiam Granda Imperiestro Meiĵi donis Reskripton pri Edukado (教育勅語), kiu ja estis lumo en malluma nokto por la popolo. Dank' al tiu Resripto la popolo povis havi okazon sin observi kaj internen turni la okulojn, kiujn ĝi direktis eksteren, kaj fine gajnis nacian memkonscion. Depost tiam la Reskripto fariĝis la plej alta principo por la popola edukado.

En 1894 kiam eksplodis Ĉina-Japana Milito, la naciismo fajre kovris la tutan landon, kaj la idea problemo venis al la fino.

En 1904 kiam komenciĝis Rusa-Japana Milito, la patriotismo de la popolo des pli leviĝis. De la granda venko la nacio pli kaj pli konsciis sian superecon, sed aliflanke ĝi, ebria de l' triumfo, iom post iom fariĝis luksa kaj facilanima. La industrio, kiu rapide kreskis, fine eĉ produktis varmbedon por ideo "materio la unua". Tiam Imperiestro Meiĵi ree admonis la popolon.

En la edukista rondo, post Spencer, la skolo de Herbert estis favorata, sed baldaŭ ĝia reago aperis, kaj ankaŭ tiu rondo vigliĝis.

En 1897 oni publikigis Dekretojn pri instruista, meza, knabina kaj industria lernejoj (師範學校令, 中學校令, 高等女學校令, 實業學校令). En 1900 estis ŝanĝo en Dekreto pri elementa lernejo (小學校令). Tiamaniere oni pli ordigis la edukan sistemon.

En 1914 Monda Milito okazis, kaj ankaŭ Japanujo ekestis unu el militantaj regnoj, sed ĉar ĝi estis fore de la milito, male ĝia industrio estis akcelita kaj ĝi povis ĝui mirinde prosperan tempon.

Monda Milito donis grandan ŝanĝon ankaŭ al internaciaj rilatoj kaj samtempe enlande donis epokfaran ŝanĝon al politiko, ekonomio, industrio, socio ktp.

La milito donis diversajn influojn ne nur al ĝenerala ideo, sed ankaŭ al ideo kaj praktiko de la edukado. Dank' al la milito, nia nacio sin lokis inter tutmondaj nacioj



kaj profunde pripensis sian estontecon. La nacia memkonscio pli kaj pli altiĝis, kaj sekve la edukideoj prosperis. Ĉefaj el ili estis jene:

Personeca edukado (人格教育), grupsistemo (分團教育), memaktiva edukado (自動教育), memlerna edukado (自學教育), literatura edukado (文藝教育), labora edukado (勤勞教育), kreiga edukado (創造教育), civitana edukado (公民教育), libera edukado (自由教育), ktp.

Ĉiuj novaj ideoj nomitaj diversmaniere de japanaj pedagogoj estas bazitaj pli-malpli sur la libera edukado. De kie venis tiuj edukideoj? Oni tuj povas montri naciojn: Germana, Usona, k. a., kaj personojn: R. Eucken, W. Winderband, B. C. L. Natorp, W. Dilthey, E. Spranger, G. M. Kerschensteiner—ĉiuj germanoj, J. Dewey, H. Parkhurst—usonanoj.

Niaj kleraj legantoj eble jam rimarkis ke en japanan edukistan rondon envenis du ĉefaj ideoj: idealismo el Germanujo, pragmatismo el Usono. Tiu fenomeno estas ne nur en edukado sed ankaŭ en alia spirita kulturo en Japanujo.

1931 eksplodis Manĉuria Afero, kaj ŝtata kaj nacia “eksterordinara tempo” aperis. La nacia opinio faris akutan turniĝon kaj ĉie oni aŭdas la noĉon “epokfare reformu la edukadan politikon”. Depost la Restariĝo de Meiĵi en 1868 Japanujo prenis eksterlandajn kulturojn kiel eble plej multe, kaj nun, al ni ŝajnas, estas la tempo, kiam ĝi devas digesti ilin kaj konstrui sian veran kulturon.

(El “*Virina Edukado en Japanujo*, 1936)

## Pri etimologioj de esperantaj vortoj

de HUDITA-Syuzo.

Multaj grandaj vortaroj de naciaj lingvoj, ... ekzemple “the Oxford English Dictionary”, “Webster’s New international Dictionary”, aŭ “Genkai”, unu el grandaj vortaroj japanaj, enhavas etimologiojn.

Kompreneble studi etimologion de ĉiu vorto ne havas grandan signifon en praktika uzo de l’ vorto, kaj esperantaj vortoj havas siajn specialajn sencojn krom siaj originalaj etimologioj. Tiamaniere ĉiuj esperantaj vortaroj ne havas etimologiojn. Sed kiel S-ro Bastien rimarkis en sia “Naŭlingva Etimologia Leksikono”, kelke da esperantistoj profitos memori vortojn per la komparo kun iliaj etimologioj.

Esperantaj vortoj devenis de nacilingvaj vortoj, escepte de kelkaj vortoj, kiuj estas arte faritaj, ... ekzemple korelativaj vortoj, kiuj tamen ankaŭ faritaj sub la influo de ia asocio de ideoj, — “ki-”, demanda senco, havas rilaton kun latina *quo*; franca *qui*, *quelle*, *quoi*, *quand*, anglaj *quest*, *question*; italaj *chi*, *che*, *quale*, *quande*; hispanaj *que*, *qui n*, *cual*, *como*, *cuante*; romanĉaj *chi*, *quel*, *quela*, *che*, *quaunt*, *cheniün*; serba *ke*, *koj*; slovaka *kto*, *kde*, *keď*, *kolke*; albana *kush*, *kur*, *kuit*; estona *kes*, *kus*, *kuidas*, *kelle*; latva *kurš*, *kura*, *kas*, *kads*, *kam*, — “ti-”, kiu estas montra, havas rilaton kun angla *th-*, *this*, *that*,



*these, those*; pola *ten, to, taki, tam*; serba *taj, to, takav, tako, tamo, tada*; ukraina *toi, to, takij, tak, tam, tiljko*; slovaka *ten, to, takovy, tam, tak*; estona *too*; latva *tas, tads, tur, tik*. Esperantaj neaj vortoj “ne” aŭ “nen-” devenas de angla *no, not, nothing, nor, neither*; flandra kaj holanda *niemand, niets, nergens*; itala *nessuno, nulla*; hispana *nada, nadie, ningun*; pola *nikt, nic, nijaki, nigdzie, nigdy*; germana *nicht, nein, niemał*; serba *niko, nishta, nikako, nikad*; ukraina *nihto, nico, niyakii*; slovaka *nikto, nikdy, nic, niktoraky*; latva *neviens, nekas, nekads, nekur, nekad*, k. t. p.

Zamenhof elektis la formen “al” por la prepozicio montranta direkton, ĉar en franca estas la formo *à*. Ankaŭ li elektis “el”, ĉar en naciaj lingvoj “e” en *ec-, ex-, es-* havas sencon de ekstera. Sur tiuj vidpunktoj oni povas pensi ke ĉiu vorto en Esperanto ne estis elpensita tute arbitre kaj devenas de ia fonto en naturaj lingvoj kaj esplori la etimologiojn de esperantaj vortoj estas fareblaj.

Tio ĉi estas mia sintenado je la studado de etimologio de esperantaj vortoj.

Multaj eŭroplingvaj vortoj devenis de greka aŭ latina lingvo. Sed la signifo de deveninta vorto ofte ne konservas la originalan signifon. Ekz. angla *conditory* kaj germana *Konditorei* devenas de latina *conditorium*, kaj la unua havas signifon de “konservejo de kadavro”, dum la dua havas signifon de “tetrinkejo, kie estas servata kuko ktp.” Esperanta “konditorio” venas de germana *Konditorei* kaj ne de angla *conditory*.

$$\begin{array}{l} \text{conditorium (L)} \begin{cases} \nearrow \text{Konditorei (G)} \rightarrow \text{konditorio (E).} \\ \searrow \text{conditory (A)} \end{cases} \end{array}$$

Alia ekzemplo — greka *daktylos* signifas fingron kaj *grafein* skribi, kaj de ili venas angla *dactylography*, kaj franca *dactylographie*. La unua signifas “mangeston por mutuloj” kaj la dua signifas “arton de maŝinskribado”, de kiu devas veni la signifo de esperanta daktilografio.

$$\begin{array}{l} \text{daktylos} \\ + \\ \text{grafein} \end{array} \left. \vphantom{\begin{array}{l} \text{daktylos} \\ + \\ \text{grafein} \end{array}} \right\} \text{(Gr)} \begin{cases} \nearrow \text{dactylography (A)} \\ \searrow \text{dactylographie (F)} \rightarrow \text{daktilografio (E).} \end{cases}$$

Mi serĉadis etimologiojn de esperantaj radikoj enhavataj en “Nova Vortaro Esperanta-Japana” (la 50-a eldono) de S-ro J. Okomoto, kiuj nombriĝas ĉ. 10600 radikoj, el kiuj mi povis trovi la etimologiojn de 10500 radikoj. Mi daŭrigos la esploradon de etimologioj de la restantaj radikoj. Ĉi-sube mi klarigos la etimologiojn de kelkaj vortoj.

-aĉ- devenas de itala *-accio*, ekz. itala *libraccio*=libraĉo, *Facciaccia*=malbela vizaĝo.

-ad- devenas de angla *-ad*, ekz. en *brocade*.

-aĵ- devenas de angla *-age*, ekz. en *heritage*.

apenaŭ devenas de france *à peine*.

**bekvadrato** estas kromsigno nuliganta antaŭan bemolecon aŭ disecon de tono. (P. V.). Ĝia angla ekvivalento estas *quadrat*, kaj germana *Quadrat*. Angla *quadrat* havas du sencojn: remburajo inter presliteroj, kaj esperanta kvadrato. Distingi tiujn du sencojn oni prenis germanan *B-Quadrat* por montri la unuan sencon.

-ĉj- devenas de hungara *-csi*; ekz. Kaĉjo estas hungare *Karcsi*.

ĉu eble devenis de rusa *ĉu*, kiu estas interjekcio kaj signifas “aŭdu”. Ĉu fariĝis



demanda vorto, enkondukite en Esp., kaj uzata kiel franca frazero "*est ce que*".

**edz-** De germana *Kronprinzessin* Zamenhof elpensis la vorton kronprincedzino, kaj el kiu la formo edzino estis enkondukita kaj fine de kiu venis la radiko edz-.

**estr-** Laŭ mia supozo, Zamenhof alprenis la formon estr- el nacilingva ekvivalento de esp. "majstro." La formo majstro devenis de itala kaj hispana *maestro*, holanda kaj flandra *meester*, norvega kaj hungara *mester*. Majstro havas signifon de ĉefo aŭ respektinda persono. Tial li prenis la formon estro el tiuj vortoj. La fak'o, ke urbestro en hungara lingvo estas *poigarmester*, pruvus la pravecon de mia hipotezo.

**fe-** devenas de franca *fée*, sveda *fé*, holanda kaj flandra *fee*, norvega *fe*, latva *feja*, kaj rusa *feya*, sed ili ĉiuj estas virinseksaj, kaj Zamenhof donis la radikon fe viran sekson kaj por montri virinseksan li uzis la formon feino.

**fraŭl-** De germana *fräulein* Zamenhof enkondukis la formon fraŭlino, de kiu devenis la radiko fraŭl-.

**kazu-** De angla *casuist* aŭ germana *Kazuist* devenas esperanta kazuisto, de kiu devenas la radiko kazu-.

**kuz-** De franca *cousine* devenas esperanto vorto kuzino, kaj de tiu devenas la radiko kuz-, forigante -in-.

**laberdan-** estas peklita viando de gado. Ĝia etimologio estas rusa labardan.

**lombard-** devenas de angla nomo *Lombard Street* en Londono, kie amasiĝas bankoj kaj bilmaklerejoj.

**makler-** Ĝia etimologio estas germana *makeln*, holanda *makelen*, flandra *makelaar*, sveda *makiäre*. Germana substantivo *Makler*, kiu signifas makleriston, havas pli da similecon, ol la verba formo.

**ornami** devenas de latina substantivo *ornamentum*, forigante *entum*, sed esperanta radiko estas verba. Latina verbo estas *ornare*, kaj franca *orner*. Latina *ornamentum* devenis de la verbo. Angla substantivo *ornament* kaj germana verbo *ornamentieren* devenis de la latina substantivo.

**pra-** Prefikso montranta plej malnovan tempon aŭ rilaton devenas de pola, slovaka, ĉeĥa, rusa, ukraina aŭ serba *pra*. Angla, franca kaj germana *pre-* kaj latina *prae-* signifas antaŭecon.

**prav-** Rusa *pravo* havas la signifon de "justeco". De ĉi tiu vorto devenas esperanta radiko *prava*, kiu havas signifon de "rezonebla".

**precip-** devenas de itala *precipualmente*, el kiu adverba sufikso *-mente* estas substituita per esperanta finaĵo *-e*.

Rim. S-ro Bastien en sia Etim. Leksikono atribuis la etimologion al *principal* de franca, itala, ktp. Sed mi pensas, ke mia supozo estas pli pravigebla.

**subretin-** Rusa virinseksa sufikso *ka* de *subretka* estas substituita per esperanta sufikso *-in*.

**ŝluz-** signifas senakvigi per drago kaj angla verbo *sluice* alrespondas al tiu ĉi vorto. Sed rusa *slyuz* aŭ germana *Schleuse*, kiuj signifas "kluzopordon", havas pli proksimuman elparolon.



**tantiem-** havas la signifon de "disdivida proporcio de profito". Franca *tantième* signifas *iom da* aŭ *kelke da*. Rusa *tantiema*, kiu havas signifon de "disdivido de profito", estas pli intima al esperanta tantiemo.

**vetur-** Itala *vettura* estas fiakro aŭ veturilo kun kvar radoj por ludono, kaj *vetturino* estas kuĉero de tia vturilo aŭ homo, kiu luas tian veturilon. Verbo *veturi* devenas de ĉi tiu origino.

## Florvazo

verkita de Masao NiŝIMURA

De flor' rompita vazo  
kuŝadas sur tablet',  
malnova kaj malpura,  
sed bela siluet',  
nenio al ĝi venas  
en tiu ĉi aŭtun',  
konsola tra fenestro  
:|: parolas eĉ ne lun'. :|:

Ŝtelmetas mi dalion  
blankan kun purpur',  
apogas en la vazo  
velkonta floro nur  
al lando la rompita  
trankvila en silent',  
fidela tuton donas  
:|: al ĝi la amosent'. :|:

Naskiĝas nova vivo  
el tiu kuno du,  
al tiu harmonio  
aldonas mi ne plu,  
sur tablo en mallumo  
ilia vivas kun',  
konsola tra fenestro  
:|: parolas eĉ ne lun'. :|:

## RESPONDANTE AL LA DEMADOJ PRI MAĈURIO

Sud-Manĉuria Fervoja Kompanio.

### 4. KIOM DA LOĜANTOJ ESTAS EN MANĈURIO?

Ankoraŭ nenia censo<sup>(1)</sup> estis farita en Manĉurio, escepte Japanan Luitan Teritorion de Kŭantung (關東州租借地) kaj Fervojan Zonon, kaj la loĝantaro de Manĉurio en la 31-a, dec., 1935, estis ĉirkaŭ 32,869,000 aŭ 25 personoj por unu kvadratkilometro.

En Luita Teritorio de Kŭantung kaj Fervoja Zono, la denseco de l' loĝantoj en la 1-a, jun., 1936 estis jena:



	Japanoj	Koreoj	Manĉu- kuanoj	Aliaj	Sumo
Kŭantung	165,012	3,726	973,898	1,570	1,144,206
Fervoja Zono	197,849	30,505	236,505	1,082	515,941
Sumo	362,861	34,231	1260,403	2,652	1,660,147

Fremdaj loĝantaroj en Manĉurio, escepte Luitan Teritorion de Kŭantung kaj Fervojan Zonon, nombriĝis en la fino de jun., 1935, 90,025 japanoj, 701,161 koreoj, 44,359 denaci-anigitaj rusoj, 21,272 sovjetaj rusoj, 5,054 blankaj rusoj, 424 britoj, 226 usonanoj, 185 francoj, 136 ĉeĥoslovakoj, 1,519 poloj, 459 germanoj, 179 litovoj, 136 danoj, kaj 441 aliaj nacioj.

La indiĝenaj popoloj en Manĉurio estas manĉuroj (滿洲人) kaj mongoloj, kvankam la granda parto de nuna loĝantaro estas hanoj (漢人) aŭ la idoj de ĉinaj kolonianoj aŭ enmigrintoj el Ĉinujo. Oni taksas ke hanoj ampleksas pli ol 80 % de la tuta loĝantaro, manĉuroj, mongoloj kaj ĉinoj kune ĉirkaŭ 10 %, japanoj 5 % kaj la aliaj 5 %. Estas dirite ke la kvinkoloraj strioj de la Manĉoŭkŭa Flago signifas la kooperan penadon de kvin superregaj rasogrupoj en Manĉurio, nome, manĉuroj, hanoj, mongoloj, japanoj, kaj ĉinoj.

## 5. KIA STARAS LA POLITIKA SITUACIO DE MANĈURIO?

Politike dirite, Manĉurio havas du administrajn dividaĵojn. La pli granda parto de Manĉurio estas administrata de Manĉoŭkŭo aŭ Ŝtato de Manĉurio, dume Luita Teritorio de Kŭantung kaj Sudmanĉuria Fervoja Zono staras sub Japana aŭtoritatularo.

### (A) Manĉoŭkŭo.

Manĉoŭkŭo fondiĝis je la 1-a, mar., 1932. Ĝi fariĝis oficiale Manĉoŭtikŭo (滿洲帝國) aŭ Imperio de Manĉurio je la 1-a, mar., 1934, kiam Ĉefa Administranto Puĵi (溥儀) surtroniis kiel Imperiestro Kangte (康德). La ĉefurbo lokiĝas ĉe Ŝinking kaj por administra celo oni dividas la landon en dekkvar Ŝeng (省) aŭ Provincojn, unu Specialan Distrikton, kaj du Specialajn Magistratojn. La nomoj kaj areoj de tiuj administraj dividoj estas jenaj:

Provincoj		Kv. km.	Kv. mejl.
Fengtjen (Mukden)	(奉天省)	86,216	(33,279)
Antung	(安東省)	48,226	(18,615)
Ĉinĉoŭ	(錦州省)	39,801	(15,363)
Ĵeho (Ĵehol)	(熱河省)	102,333	(39,501)
Ĉjentaŭ	(間島省)	29,395	(11,346)
Ĉilin (Kirin)	(吉林省)	89,910	(34,705)
Lungĉjang	(龍江省)	125,537	(48,457)
Hejho	(黑河省)	109,813	(42,388)
Sanĉjang	(三江省)	107,545	(41,512)
Pinĉjang	(濱江省)	143,425	(55,362)
Orienta Ĥingan	(興安東省)	104,060	(40,167)



Norda Ĥingan	(興安北省)	155,600	(60,062)
Okcidenta Ĥingan	(興安西省)	69,585	(26,860)
Suda Ĥingan	(興安南省)	78,787	(30,412)
Nord-Manĉuria Speciala Distrikto		1,017	(393)
Ŝinking Speciala Magistrato		191	(74)
Ĥarbin (哈爾濱) Speciala Magistrato		929	(359)
Sumo		1,292,370	(499,177)

(B) Kŭantung Luita Teritorio.

Kŭantung Luita Teritorio lokiĝas en la suda pinto de Ljaŭtung Duoninsulo kaj ampleksas areon de 3,462 kvadratkilometroj aŭ 1,337 kvadratmejoj. Japanujo heredis la Rusan lukontrakton 25 jaran por tiu Teritorio en 1905 kiel unu el la rezultatoj de Japan-Rusa Milito kaj en 1915 la lukontrakto estis plilongigita en naŭdeknaŭ jarojn, nome ĝis 1997. Ĝin administras Kŭantung Oficejo, kiu estas sub la senpera kontrolado de Japana Ambasadoro por Manĉoŭkŭo. La loka administrado de Luita Teritorio estas konfidita al Kŭantung Distrikta Registrejo en Rjoĵun (Porto Arturo) (旅順).

(C) Fervoja Zono.

Sud-Manĉuria Fervoja Zono estas kvazaŭ rubando de la lando ampleksanta la sumon de 284 kvadratkilometroj aŭ 101 kvadratmejoj laŭlonge de Sud-Manĉuriaj Fervojlinioj. Ankaŭ ĝi estis transigita al Japanujo de Rusujo en 1905 kaj la 25-jara lukontrakto estis plilongigita en naŭdeknaŭ jarojn en 1915, la Zono laŭ Dairen-Ŝinking ĉeflinio kaj ĝiaj branĉoj ĝis 2,002 kaj tiu laŭ Mukden-Antung linio ĝis 2,007. La Zono estas administrata de Loka Administra Departemento de Sud-Manĉuria Fervoja Kompanio sub la senpera kontrolado de Kŭantung Magistrato.

## 6. KIAJ ESTAS LA ADMINISTRAJ ORGANOJ DE MANĈOŬKŬO?

Manĉoŭkŭo estas Imperio. La registaro estas estrita de Imperiestro Kang Te de Ĉing-Dinastio (清朝), kiu konkeradis kaj regadis Ĉinujon dum pli ol 260 jaroj. Imperiestro reprezentas Manĉoŭkŭon: posedas la superegan potencon por deklari militon, konkludi pacon, kaj subskribi traktatojn; komandi la armeon, militŝiparon kaj aerarmeon; kaj havas la rajton permesi amnestion, specialan pardonon, moderigon de puno, kaj restarigon de civilaj rajtoj. La privata konsilantaro faras helpon al Imperiestro en liaj diversaj funkcioj, dume la leĝdona, juĝista, administra, kaj kontrolista organoj estas sendependaj unu de l' alia. La popolo estas garantiata je la libereco kaj rajtoj de siaj vivado kaj posedaĵoj, kies garantio mankis al ili antaŭ la establo de Manĉoŭkŭo. La fundamenta filozofio de Manĉoŭkŭo estas la "Ŭangtaŭ (王道), t. e." la vojo de Bonfara Reganto".

La ĉefaj organoj de la centra registaro estas ŝtata konsilantaro, leĝdona konsilantaro, tribunaloj de juĝo, kaj kontrolo konsilantaro. Tiu ĉi sistemo de kvar sendependaj administraj organizoj estas specialaj al Manĉoŭkŭo, ĉar kiel la administra organizo en la plej-



parto de la modernaj ŝtatoj troviĝas la organizo el tri sendependaj branĉoj; la administra, leĝdona kaj juĝa, dum tiu de Ĉinujo estas apartigaĵo de kvin organizoj, la administra leĝdona, juĝa, kontrolo kaj ekzamena. La ĉefa ministro estras la ŝtatan konsilantaron kaj kontrolas la ministrojn de la ok departementoj, nome civilaj aferoj, fremdaj aferoj, defenda, financa, industria, komunika, justica, kaj edukada.

Por la loka administrado, la landon oni dividas en dekkvar Ŝeng (省) aŭ provincojn prezidatajn de la Provincaj estroj, kiuj agas sub la direktado kaj kontrolado de la ĉefministro kaj departementaj ministroj. La Ŝinking kaj Ĥarbin specialaj magistratoj kaj la nord-manĉuria speciala distrikto estas ankaŭ sub la senpera kontrolado de la ŝtata konsilantaro. Unu ŝeng estas plue dividita en Ŝjen (縣) aŭ Prefektujon, sub kiu troviĝas Ĉoŭ (州) kaj Cun (村) kiel la lastaj lokorganoj administraj.

Tiel, por la unua fojo en historio, Manĉurio havas sian ŝtaton kun ĝiaj administraj organoj laŭ la moderna senco de l' vortoj. Ĝis la stariĝo de Manĉoŭkŭo en 1932, malbona administrado kaj koruptado karakterizis la politikan vivon en Manĉurio.

## La Trombo

T. TAGUĈI, *Mara Meteorologia Observatorio*

Kobe, Japanlando.

### I. Enkonduko.

La mara trombo kun la groteska funela nubo kaj la terura kirlovento estis unu el la plej mirindaj aperaĵoj al la antikvuloj. Observante la naturan fenomenon, niaj prapatroj konsideris pri la origino de la trombo kaj fine elpensis naivan teorion, t. e. la dragon-teorio. Ili kredis ke kiam la dragono en maro supreniras la ĉielon, oni vidas la trombon.

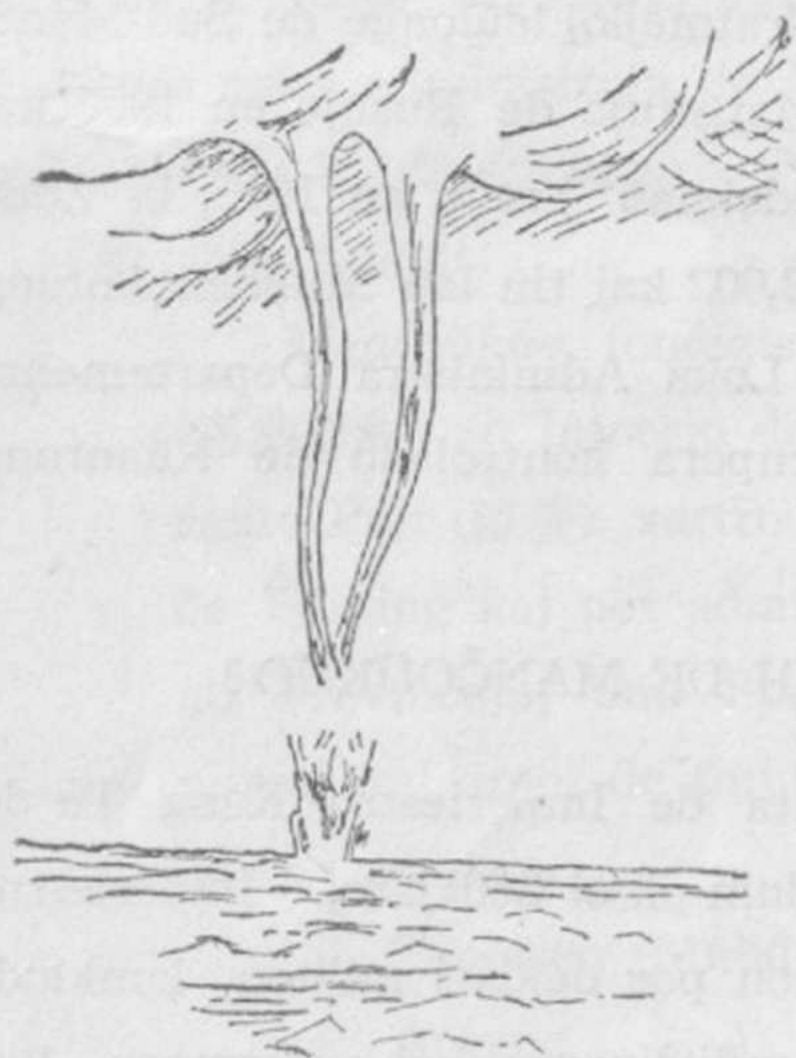
(Japanoj nomis trombon *tacu-maki*, kie *tacu*=dragono kaj *maki*=kirlo).

La dragon-teorio apartenas ne nur al Japanoj, sed multaj aliaj popoloj ankaŭ havas saman ideon en siaj legendoj.

En Jaejama-Insularo de Rjukiŭ-Insularo, oni nomas taombon *ino*. Laŭ la esploro de S-ro Iŭasaki, T. (eksdirektoro de Iŝigaki Met. Obs.), *ino* estas konstruita de du vortoj, t. e. *in*+*ro*, en kiu *in*=maro kaj *ro*=dragono.

En ĥina legendo estas multaj literaturoj. Ekzemple: "Kiam la reĝo Jŭ (禹) (ĉirkaŭ 2205 antaŭ Kristo.) estis vojaĝanta sur rivero, dragono kaŭzis la trombon kaj profanis la ŝipon". (Ŭakansenjooŝu. 1776).

La mara monstro "Tinnin" en araba legendo havas koneksan interrilton kun la



trombo observita de  
S. S. Arracan



dragono. (Botley: Met. Mag. Vol. 58. 1923). "Tinnin" estas "Tannin" en hebra lingvo, kiu estas, tradukite en anglan lingvon, la dragono aŭ la baleno. (Malnova Testamento: Psalmaro. CXLVIII-7).

Iu sovaĝa tribo en Afriko kaj Eŭropanoj kaj Amerikanoj ankaŭ iam same havis dragonlegendon pri la trombo. (Talman, C. F.: The realm of the air, 1931). Palao-anoj nomas trombon *aiakac-atab*, kie *aiakac* (*aŭ arakac aŭ akac*)=homo, viro aŭ kuraĝeco kaj *atab* (*aŭ adab*)=marakvo. Jes; ili havas la legendon pri la kuraĝa viro anstataŭ la dragono. (Informo el S-ro Kaŭasaki, H. la direktoro de Palao Met. Obs.).

Kaj estas tre interese ke en Mijako-Insulo de Rjukiŭ-Insularo restas sama legendo pri la tri kuraĝaj fratoj koncerne al la trombo. (Mijako-ŝiden.) Kompreneble la plej populara teorio pri la origino de la trombo estas la dragon-teorio.

Sed, la dragon-teorio, iama ora leĝo, fikse konstruita de longa kaj firma fidoj, finfine falis. La homo eksuspektis la verecon de la teorio. Tio okazis en japana popolo almenaŭ je la 19-a jarcento. S-ro Hattori, J. ekesprimis sian malfidon al la teorio en sia verko (Kisen-anĵoroku. 1810) kaj alia pilotlibro (Nippon-funaĵi-saikenki 1842) jam ĉesis priskribi la dragonon en sia ĉapitro pri la trombo.

Ĵurnalo "Moŝiogusa" (Apr. 1868) kontraŭdiris al la dragon-teorio kaj forte insulte diris ke "la monstroj kiel la dragono aŭ la demono en ĥina legendo estas nur la restaĵo de malnovaj tempoj".

## 新 刊 紹 介

### BIBLIOGRAFIO

Seditajn po 2 ni recenzas

Unuope ricevitaĵ estas nur menciataj

- ◎ 目下現品を取寄中のもの
- 將來取寄せる見込のもの
- ▲ 目下學會に在庫あるもの
- ★ 取次がぬもの及び非賣品

## 自 然 科 學

★ JAZAKI, Humito (矢崎富美人): **Pri la vagsubstanco (Vagusstoff) en la salivosekreĉiado** (唾液分泌=於ケル迷走神經素 (Vagusstoff) =就イテ); 消化器病學第一卷第三號 1 p., 25×17.5 cm., 1936.

S-ro H. Jazaki ĉe Prof. Okada en Internmedicina Fakolo en Nagoja Medicina Universitato, fervora esperantisto, faris ĉi-supran studon, kies resumo estas skribita en Esp. (la ĉefa teksto estas en jap. lingvo).

★ JUSTESEN, P. Th: **Rafflesia Arnoldi** bildo kun teksto, e'donita de Chr. Justesens Bogtrykkeri A/S, Kōbenhavn, 1936. prezo 2 respondkuponoj. 7 寸 4 分×9 寸 4 分、エス文 1 頁外に 3 頁五圖。

有名な大寄生植物 *Rafflesia Arnold* を圖解説明したもの。紙はアートペーパーで圖は美麗である。

▲ Hermesa Rondeto: **Seslingva Vortareto de Medikamentoj laŭ Japana Farma-**



**kopeo (reviziita eldono)**, eldonita de Nankodo, Hongo-ku, Tokio, 1936, prezo 2.10 enoj.,  $8.5 \times 17$  cm., 31+202+23 p.

La unua eldono de l' verko aperis en 1930, kaj ĝi enhavis la nomojn de ĉiuj medikamentoj en la Japana Farmakopeo (la 4-a eldono) en ses lingvoj: Esperanto, latina, japana, germana, angla kaj franca lingvoj. En 1932 Japana Farmakopeo estis reviziita kaj ĝia 5-a eldono aperis. La kompilintoj intencis revizii la verkon laŭ la 5-a eldono de J. F., sed pro okupateco ili ne povis plenumi la deziron. Fine helpanto S-ro Y. Dôtu, studento de farmacia fako de Tokia Imperia Universitato, aperis kaj per lia klopodo la manuskripto estis farita.

La reviziita eldono nun enhavas la nomojn de ĉiuj medikamentoj en la 4-a kaj la 5-a eldono de Jap. Farmakopeo kaj nun estis aldonita indekso, per kiu oni povas trovi facile serĉotan objekton.

La nova eldono pliampleksiĝis je ĉ. 60 paĝoj kaj la prezo ankaŭ altiĝis je 0.5 eno.

★ Вюстер. Е.: Международная Стандартизация Языка в Технике, 菊版 302 頁。eldonita de Государственное Издательство по Стандартизации, Moskvo 1935.

W-ro E. Wüster の Internationale Sprachnormung in der Technik のロシア語譯。6 頁の 에스語書き resumo がついてゐる。この原著ドイツ語版は AELA の 1935 年度 Lingva serio の一冊として 에스語譯 (Normlingvo por elektrotekniko) として出版の筈である。(まだ出版されてはゐないが近い中に出るかと思ふ)。

## エ ス 語 學

★ M. Rollet de l'Isle: **Malsimplaj Formoj de la Verbo**, eldonita de la aŭtoro mem. 菊判 24 頁。

La aŭtoro estas la prezidanto de la Esperantista Akademio. La verko pritraktas la malsimplajn formojn de la esperanta verbo.

Lia klarigo pri la kunmetitaj tempoj estas tre interesaj kaj rezoneblaj. Kompreneble ni ne povas konsenti ĉion, kion la aŭtoro pretendas, sed la verko estas leginda por esperantologoj.

La aŭtoro, tre fervora kaj eminenta, nun publikigis sian studon en broŝuroj. Antaŭ ĉio ni devas estimi lian nelacigeblan energiplenan laboron. Ni estas tute feliĉaj, havante tian homon kiel la prezidanton de nia Akademio.

★ Naokazu KAWASAKI: **-O-: Z.-aj Ekzemploj** (Esperantologia raporto de Kawasaki, N-ro 1), eldonita de la aŭtoro, 409, Hamagutityô, Sumiyosi, Osaka, Jap. 菊版, 13 p. (非賣品)

合成語をつくる際兩語根の結合部へ母音 o を挿入する (例 lernolibro) 場合につき Zamenhof のすべての用例についてしらべそれを表にして示したもの。

こういつた研究が種々の方面になされたならばどの位 에스研究上に役立つかわからぬと思ふ。本誌本號の川崎氏稿「落穂拾ひ」をよまれるとこの用例調査の苦心がわかると思ふ。

La laboron farita de nia esperantologo N. Kawasaki, LK-ano, ni kun fiero prezentas al la tutmonda samideanaro.



## 教 育

★Ŝooiĉi NIKKAŬA: **Virina Edukado en Japanujo**, 15×22.4 cm., 40 p. eldonita de la aŭtoro.

La aŭtoro estas la estro de knabina altlernejo en Takacu-maĉi, Kanagaŭa-ken, Japanujo. Li ĉeestis la 7-an Mondkonferencon de Nova Edukado en Cheltenham en Anglujo en la lasta aŭgusto kaj por ĝin partopreni li verkis ĉi tiun libreton. La verko pritraktas: 1. Moderna Edukado en Jap. 2. Sistemo de Virina Edukado. 3. Socia Edukado. 4. Knabina Alta Lernejo. 5. Nova Edukado en Knabina Lernejo. 6. Virina Problemo kaj Ekukado en Jap.

## エ ス 運 動

★1936 ars matrikel (Jarlibro de Svenska Esperanto-Förbundet), 菊判 72 頁

初に 19 頁に亘りエス語で 1935 年度の一年度の報告其他がある。同會の會員數は 1925 年に 255 名にすぎなかつたのが 1930 年に 800 名、1931 年に 1628 名、34 年に 2346 名、35 年には 2681 名といふ増加ぶりである。

其他は地方別に地方會名や會員名簿が發表されてゐる。

## PAROLAS

## MEMBROJ

規定：匿名のものは没とす。特に誌上匿名のものをのせる場合もあるが本名のものに優先權を與ふ

## Malgranda Enciklopedio Japania

石 賀 修

文獻の充實といふことは Esp. 運動の最も重要な一分野として R. O. 誌上でも屢々稱へられた所であるし、又現在の狀勢から云つても極めて堅實な有効な方法であると思ふ。それについて今私の特に實現を希望したいのは、„日本百科辭典“の發行である。

ジャーナリズムの自己陶醉は別としても、國外に於て日本に對する關心が近年相當に昂まつたことはほんとならしい。この機に乗じてといふわけではないかも知れぬが、國際文化振興會あたりでも英文の日本百科辭典を出すとか傳へられてゐる。確にその必要は感じられてゐるに違ひない。日本人は非常に歐米の事に詳しいとか言ふことだが、その日本の百科辭典類を見ても諸外國のこと殊に我々に親しい Nederlando や Svedujo のことなど甚だ不十分にしか紹介されてない事から逆に想像して見て、それら諸外國に於ける日本の知られ方といふものが想ひやられる。従つて國際文化振興會あたりの企ても充分有意義なもの

であると思ふ。

然し我々の立場からすれば、それが英文といふ點が致命的な難點であるし、價格の點でも malriĉaj samideanoj には向くまいし、又それがお上の仕事であることから來る制約も見逃し得ない。即ち國外の同志の要望を滿す爲にはどうしてもエス文の百科辭典の出版が必要である。

日本の歴史、文化、産業から動植物、料理などに至るまで簡明に説明した Enciklopedieto が出ればそれによつて益されるのは國外の同志ばかりではない。實際、日本の草花の種子を所望されて何が日本の草花かをしらべるのに一苦勞し次にその栽培法をしらべるのに何時間も費したり、端午の節句の起源をきいて誰からも返事を得られなかつたり、てんぷらの製法を教へてやらうと思つて和エスを十べんも引くり返したりしなければならぬ我々にとつても亦非常に重寶なものになるに違ひない。

完全を期すればもとより大事業である。然し版を改める毎に完全にしてく様になれば必しも難事業ではない。差當りいつかの R.O. に出た日本文學史や昨年の Esperanto-Lernanto に出た Aferoj en Japanujo などはよい基礎を提供すると思ふ。これらをも少し組織的に集めて編輯すれば、割合に容易にその實現を見得るものではあるまいか。

これが出版されれば國內宣傳上にも随分役立つであらうし、國外に對しては「新撰和エス」と並んで日本エス運動の健在を誇示することも出來よう。その速なる實現を切望する。



## 1940 年萬國エスペラント大會東京招致問題

### Nefavora Respondo

學會事務局から 1940 年に日本に萬國エスペラント大會を招待するの件について UEA の nova direktoro Goldsmith 氏に日本が萬國大會を 1940 年招待すればどれほどの licencpago を必要とするか。又歐洲の同志は之に賛成するかときいてやつたところが次の様な malfavora な返事が來た。

尤も licencpago は澤山ではないからその點はありがたいがとにかく UEA の幹部が日本の invito に favora でないとすると困る。

その上萬國大會を主催する UEA が別項記載の如き紛糾状態にあるので猶更こまりものである（萬國大會が IEL の主催となるかどうかも見透しがつかぬ故）。

とにかくこの状態ではしばらく UEA の紛糾が解消する迄はむづかしいと思ふ。

尤もまだ三年も先のことであるから今から悲觀する必要はない。

### 11 月 2 日付 Goldsmith 氏よりの書信の一部

**Universala Kongreso.** Antaŭ la kongreso en Vieno ni ricevis inviton okazigi kongreson en Nov-Zelando en 1940. Tiun inviton ni diskutis en Vieno, sed ne akceptis ĝin. Sed tie ankaŭ ni priparolis la eblecon iam okazigi kongreson en Japanujo kaj aliaj malproksimaj landoj. Ni opiniis, ke almenaŭ dum la venontaj kelkaj jaroj, tio ne estus ebla, ĉar en Japanujo e' zemple nur povus ĉeesti samideanoj el Ĥinujo, Japanujo, Usono kaj du tri aliaj landoj. Ni povas kalkuli, ke maksimume 10 povus veni el la tuta Eŭropo, parte pro la alta kosto kaj parte pro la longa tempo bezonata. Ni do opinias, ke nuntempe la Komitato ne akceptus tiun inviton, sed persone mi tre ŝatus vidi iam kongreson en Tokio.

La licenc-pago estas 20% kaj la kutima kongres-kotizo estas sv. frk. 25.—

.....  
(記者註 25 sv. fr. は日本貨 20 圓位と思ふ)。

---

エスペラント用タイプライター

スイス E. PAILLARD 製 HERMES ¥ 130

---



# 全 國 各 地 報 道

投稿注意:

1. 日本文にて・なるべくハガキで・迅速に・簡単に。
2. 締切大體前月 18 日 (18 日以後到着のものものせることあり)。
3. 地方會誌を以て報道に代ふるをえず。
4. 寫眞は裏に必ず何の寫眞かといふ説明記入の事。  
寫眞は返送せず資料として保存す。

東京 ★淺草クンシード(金曜例會)出席者 15 名内外、原田、多羅尾、上田、露木の諸氏も毎回出席され研究に會話に *vigla* な會合を續けてゐる。——11 月 6 日例會へ大阪千里放送所の橋田慶藏氏出席さる。(例會場所淺草雷門前明治製菓階上 19 時から 21 時まで)。

◇調査部 「學習動機に關する」調査も着々進行中だがまだ全國よりの回答が揃はぬため具體的發表まで至らぬ、目下回答到着は 600 通全國同志の御支援を特に乞ふ。その他 *Movado* に關する各種の調査も會員の努力が續けられてゐる。(本會に對する照會は學會内渡部宛に)。

★慶應義塾エス會——11 月 3 日三田、四谷エス會懇親會を澁谷驛前東京パンに於て開催、今回新たに日吉支部を設立し兒玉教授が新會長に就任された。

★綠友會——成蹊高等學校卒業のエスペランティストを中心としての會員相互の親睦、研究會である綠友會が結成されてから、既に 5 ケ年。この間數十回に亘つて種々の會合が開かれた。

10 月 24 日—25 日、箱根地方へピクニック。参加者、菅野、田澤、鶴田、小林、田澤(義)、大河原、久保の 7 名。第一日松濤園泊、翌日は好天氣に恵まれ、蘆の湖、箱根の山々を娛む。7 時新宿歸着。新宿にて、會食しながらオリンピック用語問題、ローマ字問題等について議論する。

11 月 20 日、17.30—22.00、久保氏宅にて「久保氏に物を訊く會」を催す。参加者の中成蹊の梅地教授、佐々城佑氏、三上氏等 13 名。「世界のエスペラント連動の現状」について、久保氏から、新生 UEA の分裂、フキス派と英國派の争ひ、ドイツに於けるエス語彈壓、其他一般の狀勢の説明があつた。ナチスのエス語忌避はヒットラーの「*Mein Kampf*」第一卷の 337 頁にあげられてをる、荒唐無稽な

論據を擧げて、之を論難した。質問に入つて、エス語の將來、オリンピックに如何にエス語を導入するか、文獻を豊富にする方法等に就き活潑に意見が交換された。この場で日本のエス運動の振興をはかる最も基礎的な方法としてすべてのエスペランティストが學會の會員になる事が希望され、出席會員の中、從來學會會員でなかつた同志悉く (8 名) が即座に入會の手續をとつた。

## 東宮豊守氏の訃

有島の宣言をエス譯して令名のあつた故

東宮豊達氏の令弟東宮豊守氏は數年來熱心な同志であり昨年は學會の中等講習等に出席の後種々の會合に出てをられた前途有爲の青年エスペランティストであつたが一兩年來健康を害されてゐたが本年夏以來病臥中であつた。去る 11 月 13 日永眠されたことは惜みてもあまりあることである。御遺族に對し深く忘悼の微意を表明致します。

## 横濱

★新川氏歸朝歡迎會——既報無事歸朝された新川氏の歡迎會を 11 月 14 日

櫻山グリルで開催。出席者は東京、横須賀、平塚等からもあり 30 名を超えた。歐洲各地の同志との交歓や UEA 本部への訪問談など興味深く又ナチスドイツの同志の様子も聞いたが個人的に研究を續けてゐるとのこと。10 時近く散會。

★初講無事終了——去る 9 月以來の初講も 11 月 16 日無事終了した。雨天續きではあつたが出席率は良好であつた。11 月 19 日夜 JEA では講習終了の方々を招いて茶話會を開いた。

★木曜例會 (於住吉町メツセンヂャーボーイ事務所)——數ヶ月間を *senprograme* に過して來たが有志の希望に依り、*Teksto* を用ひた研究を 11 月 26 日より開始することにした。用書は中等讀本で午後 7 時から始めて約 1 時間で終り、續いて會話會に移る。初講終了者も之に参加する豫定。

★Amikino (會場同上)——毎木夜 5 時より 7 時まで、用書 *Marta*。

★YMCA-Grupo (毎火金夜 7 時—9 時於クラブ室)——初講終了者中 6 名を部員に迎へて、之等を中心に「興味の中に *Esp.* を」といふ意味で *Gaja Lernolibro* を用ひ、會話、文法兩方面に力を注ぐ。尙英語學校では杉山氏が毎火金講習を指導してゐる。



## —— ザ 祭 放 送 ——

**仙臺 (JOHK)**——12月15日午後5時35分  
東北帝大教授理博松隈健彦氏。

猶短期のエス語講座(12月21, 22, 23, 24, 26, 28日午前7時より)を開講さるる様學會仙臺支部より申諭中である。

**石巻** ★石巻エス會——10月23, 4, 5, 6日  
石巻商業學校に於て大牟田エス會の  
外國兒童作品、各國の見本市ポスター、各國  
觀光案内を陳列して石巻市に於て最初のエス  
ペラント展覽會を開く、觀衆7900餘名頗る  
盛況であつた、これに力を得て近く講習會開  
催の豫定。(同志南教授の努力による)



石巻商業のエス展

**青森** ★青森エス會——小學生、F-ino, 中  
學生等各ロンドを組織して輪讀會を  
開いてゐる。11月1日淺虫温泉へ遠足。10月  
25日例會、9名出席、雜談。11月5日例會、  
公開エス會を新聞へ發表を決定。



青森エス會ピクニーコ

左より、神、齋藤、森谷、榊、葛西、  
北川、大山、成田、葛西、横岡の諸氏

**弘前** ★弘前エス會——11月1日會員4名  
市から4軒程離れた柳田氏宅を訪ね  
た、中等部は毎木曜谷山氏宅(新寺町正蓮寺)  
で行はれてゐる。弘前市、東奥義塾(私立中  
學校)に今度笹森塾長關敦頭兩先生の理解あ  
る支持と田中定二先生の援助とに依つて生徒  
等のために初等講習會が開かれる11月24日  
—12月5日放課後の1時間、短期講習書を使  
用、講師は柳田英二氏。

**帯廣** ★學會帶廣支部——11月5日北里研  
究所田畑喜作氏來帶、同夜長谷川、佐  
藤、沼田、井上、野田の諸氏、同氏を旅館に  
訪ね歡談、同氏は文藝方面に特に造詣深くエ  
スペラント文學の興味ある話や中央情勢等面  
白い時を過した。現在會合は一時中止し、月  
1回の懇談會を開いてゐる。(井上氏報)

★東北エス會——11月12日より初等講習會  
を開いてゐる、頗る盛會である近く學會々員  
を募る事になつてゐる。

**札幌** ★札幌エス會——10月21日東京  
より田畑喜作氏來札、水曜日集會に  
出席さる、歸途明葉にて會談す、10月22日  
相澤氏、田畑氏を訪問東京方面のエス運動等  
に就き會談す、10月28日水曜集會參加者15  
名、11月4日水曜集會參加者12名、11月11  
日會場變更北二條西十四丁目高瀬會長宅、當  
日參加者15名、童話讀本も大半讀了したので  
用書選定中、10月23日雨降りのため參加者  
12名、東京の田畑喜作氏も出席され大學の山  
賀博士も會話の練習に來られた、エス語だけ  
で雜談田畑氏より色々有益な話や愉快的話な  
ど聴く、11月13日約10名の參加者があつた  
8月の講習會を終へた人達も相當巧みにエス  
語を話せるやうになつた。

**富山** ★富山エス會——10月3日より初等  
講習開催、受講者9名、用書は捷徑、  
北日エス欄は各方面の御援助で繼續中。最近  
當會を訪問された人は七尾の田中淑子氏、高  
岡の角尾芳風氏夫妻、前會長石黒彰彦氏、淺  
草エス會宮田道夫氏(舊姓谷村)等であつた。  
宮田氏はなほ速見人造肥料の國分氏、五百石  
の深井氏等を歴訪された。石黒氏は東洋文史  
研究所の特使として同會の説明につとめた後  
懷舊談をなして歸られた。10月4日當地宮市  
大丸店にて遞信展開催の際にはエスペラント  
概要を10部賣上げた。

**金澤** ★金澤エス會——10月20日より西  
町商工會議所にて第42回初等講習  
會を行つた。連續10日間毎日7時より9時

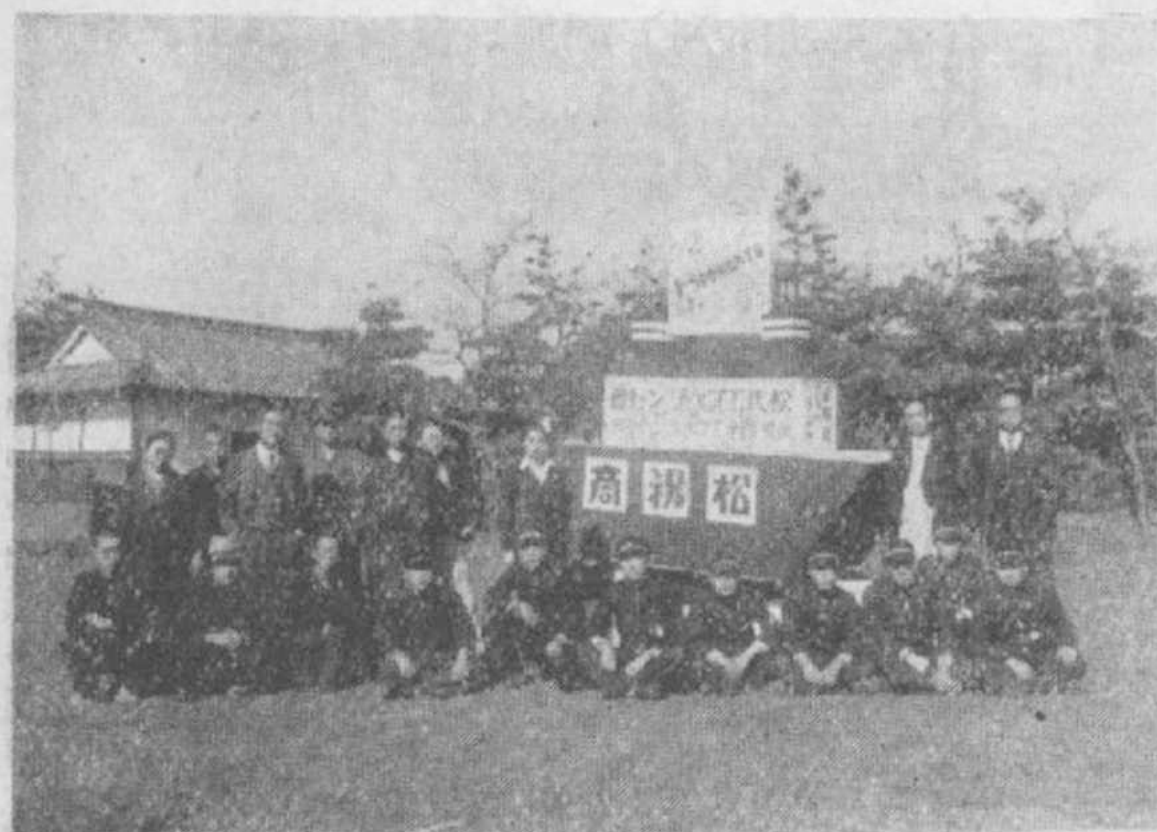


半用書井上讀本、松田氏指導。新聞の都合により anonco が間に合はずやつと前日になつて掲載されたため senefika で参加者は僅か5名にとどまつたが少人数のため却つて内容のある講習を行ふ事が出来た。なほ終了後引き続き松田氏方にて毎木曜初等研究會を行つて居る。参加者、松田、那賀島、腰中、高田、宮多。◇月曜例會——一般會員のための中等例會、石川貯蓄にて、目下海神丸輪讀中、主なる出席者、松田、平石、荒木、中上、伊藤、矢徳、木津等。10月19日3名、11月2日10名、11月9日6名、永らく dormadi して居た岡山氏出席今後再び返り咲く事となつた。11月16日6名。近藤久々にて出席。今後荒木氏宅にて virina rondo を再開に決定、用書 Marta.

電氣局にては平石氏を中心に、福岡、越田、荒間中等前回講習會終了者により毎週2回研究會が行はれて居る、Ezopo 輪讀。

★醫大エス會——今春來すでに Medicina Krestomatio フランス編、スラブ編等を讀了今回海神丸にうつる。中上氏指導、毎週月曜1回學内にて、11月3日中上、山本、金井、藤原の4名及び松田湯涌へピクニーコを行つた。紅葉をたのしみながら interparolado の練習をした。

松代 ★松代エス會——10月11日より28日迄御製碑前四阿に於て早起中等講習開催、用書はエスペラント童話讀本、10月28日19時40分より町立松代圖書館にて吉村榮祐氏の送別會を開く。



松代エス會の早起講習會

左より〔前列〕戸谷、山田、栗林、白倉昇、坂口、〔後列〕瀧澤、吉村、山上、三村、松川、瀧澤(岩)の諸氏諸嬢



松代エス會の松代商業紀念祝典の廣告祭に参加紀念

静岡 ★静岡綠星俱樂部——今夏初等講習開催後(既報)毎週木曜の夜7時—9時、葵文庫にて中等講習を引續き開いて居るが、毎回10名内外の出席、指導は榊野助治郎氏、用書は小坂氏イソップ物語、出席者は何れも熱心。高橋邦太郎氏毎回出馬し自らガリ版で Esp. ludujo を作り或は歌を刷つて來て一同と和氣霽々裡に輕快な Esp. parolo を混えて自然に耳と口に語を親しみますことが出来るのは全く此72の老闘士を持つ當會の誇であり榮譽である。なほ東京朝日静岡版の寫眞入の大記事が今以て効力を持續し毎回新加入者あり、爲めに飯塚傳太郎氏受持の乙組は大繁昌、初講の繰返しをやつてゐる。

名古屋 ★名古屋エス會——◇9月24日より初等講習を開催す、毎週1回木曜の夜、19時半より2時間宛、用書は學會の初等エス讀本、rekta metodo を加味して由比、竹中兩氏指導に當る、受講者13名。毎週月曜日19時半より輪讀會、目下文藝讀本北歐篇輪讀中、出席4—6名、以上會場は何れも中區鐵砲町2丁目白木氏方。10月10日 Ora Delfeno 第30號發行。10月26日東京の同志石黒彰彦氏來訪、萬國大會日本開催に就て大いに議論し、結局萬國大會を招致する様お互努力することに意見一致、22時半名古屋驛へ見送る。11月8日 H. E. S. 秋の遠足を行ふ。8時29分名古屋驛發關西線で彌富に行き、桑名の同志松岡氏、四日市の福田氏等の御案内で尾張大橋を渡り長島の本曾川べりを歩き、船頭平開門、千本松原、治水神社を経て、長良、揖斐の兩大川を渡船で渡り多度神社參拜、電車で桑名に至り、玉井醫院の桑名エス會 kunsido を訪問、20時15分の准急で歸る、参加者名古屋5名、都合7名。

★ルーマ・ケンシード——10月12日秋の初



等講習會を名古屋新聞社後援の下に名販社にて開催す。當日は防空演習にて受講生少く10名申込を受付、爲に1日延期して13日より講習を開始に決定。10月13日、新聞社の好意的記事により、當日受講申込倍加され21名の受講生によつて初等講習を開く、講師は尾崎元親、上村寛の兩氏。8日間の短期を毎日平均19名出席、熱心に受講した。10月20日、8日間にわたつた初等講習會も盛會に閉會す。10月21日、名古屋プレイガイド集會室に於て夕7時より受講生の爲の歓迎茶話會を林司會の下に開く、例によつてエスペーロ、會の内容説明(林)、講師感想(尾崎、上村)より座談に入り logike な上村氏の説明と熱心な受講生氏の一問一答に花を咲かせ、10時に散會、當日出席者 28 名。10月25日秋のエキスクルソを、岐阜—監川橋—三田洞迄の 14 軒をピエドイラードした。出席者少なく池田、林、高橋、岡本、田中、加藤、坂本、奧林の 8 名参加。10月27日 8 名、30日 18 名、11月3日 5 名、6日 17 名、10日 7 名、毎週、火曜、東新町、サンパウロ喫茶店階上、金曜、名古屋新聞社東隣名販社階上共に 7 時より 9 時迄。

★名古屋醫大エス會——11月1日、2日、3日の3日間學内學生ホールにて學生趣味展覽會及び遺墨展覽會を學生部會學藝部主催にて開催。醫大エス會も、他のローマ字、繪畫、寫真同好會と共に出品をなす。材料は學會よりのポスターの他、市内山田、由比、矢崎氏より拜借の圖書等も陳列し、日曜、祭日等の爲學内外より相當多數の熱心な觀覽者を得、成功裡に終了した。展覽品中最も人目を引きつけたのは、汎太平洋博に關した大岩市長のエス文(日本譯と共に)手紙であつた。



田邊エス研究會の一回講習會

右より第一列、岡本、小川、廣畑、梅田、山本、瀧浪、第二列、土永、山田、佐藤、田中、稻豐、本田、第三列、川口、植坂、倉島、楠本、栗山の諸氏諸嬢

和歌山 ★田邊エス會——田邊 Esp. 研究會主催初等講習會を 10 月 20 日より 30 日まで第一小學校にて開催、講習生 18 名で完全に終了したもの 15 名だつた。今後は毎日曜日午後 7 時より、紀伊無盡會社にて研究會を開く。テキストはイソツブ物語。

大阪 ★大阪エス會——中等講習に出た熱心家 5 人が引續き Supera Kurso につき毎週 1 回カナモジカイ事務所で研究中、隅谷氏指導。10月27日の火曜から新會場東市民館に移る、大阪市社會部長志賀支那人氏の好意に依り komforta ĉambro が提供され會合する人も多くなつた。11月3日會場を臨時に心齋橋明治製菓に移し會話會。

★展覽會二つ——學校の記念祭當日の人出を利用して展覽會が引續き二つ開かれた。10月25日(日)の大阪外國語學校と11月3日(祭)の大阪齒科醫專とである。共に OES 其他から應援隊が出張して朝から晩まで參觀者に一々



大阪外語でのエス展記念

右より〔前列〕福原、多田、隅田、小泉、〔後列〕桑原、伊藤、藤田、土屋、進藤、飯田の諸氏諸嬢

説明して各個擊破に力を盡し大成功であつた。展覽會には是非其説明がなければならぬことを痛感した。參觀者は外語 1000 人、齒專 500 人。猶 11 月 9 日外語の世界各國語學大會の劈頭恒例によりエスペラントの演説が行はれた。スペイン語科 2 年土屋秀一君がエス語でザメンホフに就いて演説し、英語科前田壽君が通譯をした。

★10月30日 YMCA で開かれたローマ字講演會の後田中館博士を圍む座談會で出席中の大毎記者からエスペラントとローマ字の關係につき質問が出た。座長の希望により桑原が答辯を兼ねて宣傳をした。



★OES 豫告——次の豫定以外毎週火曜午後7時から東市民館(谷町4丁目)で北歐篇に就き研究会。12月15日ザメンホフ祭、午後6時から淀屋橋スエヒロで會費80錢。12月29日「一年を顧る」座談會、Trapezo(平野町心齋橋筋)で。7時。

神戸 ★板宿エス會——11月2日永井會長宅に tekunveno を持った。出席者9名、講習會及今後の會の發展策等議して仲々盛大であつた。因に中等講習は12月2日より開催の豫定である。(川上氏報)



板宿エス會——〔右より〕前列、古田、永井、直井、尾崎、後列、安藤、川上、岡部、井上、金上の諸氏

高知 ★高知エスクラブ——クラブ機關誌 EL SUDO 休刊中なるも、寄贈誌は絶えず回覧しつつあり。

飯塚 ★飯塚エス會——飯塚町大火があつたが幸ひ會員罹災なし、御見舞下された方々に深甚の謝意を表す。

行橋 ★行橋エス會——毎月2回第一、第三土曜日笹原會長及豊守氏病氣のた

め鮎川方に會合中。10月30日付エスペラント後援會のエスペラントに付き問合を行橋町有志附近の小學校長、中學校長等30名に出したる所8通の返事を受ける(26.7%)。

8通の内

1) に對し	賛 6	否 0	其他 2
2) に對し	賛 4	否 0	其他 4

其の他はエス語につき研究皆無につき返事致し兼ね候といふので、2)に對しては一部若しくは課外に或は隨意課として賛が多く、其他は研究中或は現在の學制々度では研究の餘地があることと思ひますと云ふの等。(鮎川氏報)

宮崎 ★宮崎エス會——研究會はザ演說集を輪讀、初等講習は會場を研究會と合同し、例會の1時間前に「イヴンの馬鹿」を講ずる事にした。11月1日市外赤江濱にピクニーコを行つた。内務省河川改修事務所の同志寺澤氏の御好意で往復共同所の機艇で河川改修の實際を見學し得る處が多かつた。



宮崎エス會ピクニーコ



★第二回日本國民速記大會——10月25日10時より田川郡赤村小學校にて、出席30名。

左より〔第一列〕中山、大場、同、中山、萬代、稻男、山畑、片山、徳重、〔第二列〕城田、問田、鶴野、原、鮎川、大場、眞藤、諧、〔第三列〕野見山、村尾、花村、末森、在津、中村、中川、〔第四列〕川口、大場、大場、諧、大場、中村の諸氏。



**熊本** ★**學會熊本支部**——第二火曜例會は出席9名、講習會の準備に就き話し合ひ、10時散會。此日、宇土より轉任された西村少佐及び電通支局長河邑氏が初めて出席された。9月より10月にかけて、東京より泉茂雄氏、鹿兒島の四元氏、人吉の早川氏等次々に來熊され、熊本エス會大いに賑ふ。8月末結成された LEK には人吉エス會も參加決定、高瀬もエス會を成立さして參加の筈で、着々と成果をあげてゐる。後は孤立せる同志との完全な連絡のみ近く organo も出来る。縣下一齊に講習會を開く筈である。熊本、宇土、高瀬、人吉にて、現任全會員大多忙に困るほどの馬力をかけてゐる。10月末日より水前寺神尾醫院で初等講習を開く、受講者7名、内4人は珍らしく學生であつた。坂崎氏が指導されてゐる。熊本聯盟機關紙“Flamo”は可成り評判よく激勵の手紙が多数舞込んで、皆に猶更の自重を感ぜしめる。地方會との機關紙の交換がしたので、機關紙を持つてゐる地方會は御一報下さい(熊本市紺屋今町、熊電内加藤孝一宛)。例會日割、毎週木曜19時より本莊町熊電俱樂部。研究會、毎月第二火曜、懇談會は水前寺神尾醫院にて。毎月第一、第三月曜會話會、水道町大學堂喫茶部、會費10錢。

**京城** ★**朝鮮鐵道局**——10月16日午後1時より龍山鐵道局々友會館でエスペラント講演會を開催した、聴講者150名。大山時雄、長谷川教授兩氏の講演があつた。昨今のエスペラントの實用を示した印刷物を1000枚印刷して全鮮の鐵道事務所、驛、鐵道病院、圖書館、鐵道ホテル等に配布した。11月11日(水)より初等講習を開いてゐる、講師は大山時雄氏。(矢島英男氏報)

### 街のエスペラント

★**觀光の函館**——函館市役所から出版された函館市の名所紹介の(横1尺4寸縦1尺)折疊み式の案内葉には Vizu Hakodateon! とエス語が書かれてゐる。他は全部日本文。同志井上一氏の御努力によるものと思ふ。

★**時計文字板**——東京市浅草區駒形1の7アイツキ商店で今度發賣の時計文字板は輸入品防遏のための國産セルロイド製品との事であるがこの文字板には supera なるエス名を入れてゐる。これは同志小池壽氏の御努力による。

★**本の包み紙**——東京市芝區濱松町2の2岩

岡書店の包み紙に Libro vendejo lūaoka と書かれてゐる。

★**横濱高商の運動會紀念手拭**——横濱高等商業學校の運動會の時全校生及び競技出場中等學校の選手へ贈呈の手拭は渡邊教授の考案によるエス語入デザインのものである。その中に書かれてゐるエス語は Fortan korpon Pravan ideon k. Noblan animon. の標語及び Aŭtuno 1936. である。これが約千名の人々に配布されたもの故相當の宣傳上 efiko をおさめたことと思ふ。

★**高周波治療器説明書**——我々の熱心な同志工學博士高岸榮次郎氏の高岸高周波研究所で發賣の高岸式超短波治療器の説明書の表紙には Ultramallongonda Kuracilo de Takagiŝi-tipo, Takagiŝi Altfrekvenca Laboratorio, Tokio とエス語で書かれてゐる。

★**YOKOGAKI 日記**——菊判美麗、(1日1頁の割)來年の日記である。日本のローマ字社發行。(價1圓送料12錢)、中に毎日の歴史を各頁に入れてゐるがエス語に關するものも入つてゐるしザメンホーフ博士の肖像も入れてある。エス文で日記をつける人々におすすめしたい。

### 新聞雜誌とエス

★**北海タイムス**(10月25,27,28日)——言語の問題——佐藤松男氏。

★**十勝毎日新聞**(10月27,28,29,30,11月1,3,5日)——ザメンホーフは叫ぶ——佐藤松男氏。

★**北陸日日新聞**(10月21日)——外國語問題——岡本好次氏、(10月22日)——質疑應答——蟹江生氏、(10月23,24,日)——異國便り——安本靜江嬢、(10月27日)——萬國エス大會を——馬場彌十氏、(11月5日)——エス語は獨習出来るか——富山エス會、(11月6日)——エスペラントと縣知事一行——深井正淑氏、(11月7日)——フィンランド便り——安本靜江嬢。

★**九州日日新聞**(10月31日)——紀元二千六百年に備へてエス講習。

★**北海眞宗**(9月25日)——我等何をすべきか——岡崎靈夢氏。

★**眞人道**(432號)——理想的世界語。

★**慈光**(11月5日)——佛教の普及——英國佛教エス聯盟機關誌より。

★**東京日日新聞**(10月22日)——忘れられたエス語——(讀者の放送)欄。



- ★新興佛教新聞 (11月1日)——「ゴシップ」欄にエス語に觸れてゐる。
- ★九州新聞 (10月30日)——熊本縣エス聯盟の開催の各地エス講習についての記事、(大々的に扱はれてゐる)。
- ★岩手日報 (11月6,7日)——フィンランドから (エス通信を安本嬢が和譯紹介したもの)。
- ★東奥日報 (11月15日)——青森エス會の講習についての豫報記事(詳しく)。
- ★弘前新聞 (10月30日、31日、11月1日、7日、9日、10日)——エスペラント小話——弘前エス會譯 (anekdotoj の和譯をのせたもの)。
- ★弘前大正報 (10月3日)——エス初等講習會に際して (エス語紹介記事)。
- ★なんぶう (10月號)——エス講座 (7)——加藤孝一氏。
- ★植物及動物 (7,8月號)——Nova aldono al la vivo de Mendel (I), (II)——篠遠喜人氏(エス文 titolo)。
- ★同 (8,9,10,11月號)——Vojago por kolekti Animalojn sur la marbordo de Formoso (I), (II), (III), (IV)——佐藤隼夫氏(エス文 titolo)。

### 地方會機關誌その他

- ★A. E. S. (淺草) (5號) 菊判 10 頁、バギー、カロチャイの夕の感想(露木)、El mia taglibro (新津)。
- ★Forta Voko (富山) (11月號) 18 頁、Bonzo kaj liaj Disĉiploj. (松田)
- ★Flamo (熊本) (創刊號) 菊判 38 頁、二人旅東方遍歴(坂崎)、泉茂雄氏來訪記(市原)、新しき展開(久良)、La Knabineto kun la alumetoj (H. Jusen), Bona Patrino (K. H.), Ŝtelo (Feliĉulo), Reĝo Rosko malsaga (K. I.), Prihereda malpaco (R. T.), Ni Korespondu (J. K.), Privilegio de Junuloj (T. K.) (熊本エス聯盟機關誌、發行所、熊本市本山町 341 加藤孝一方)。

### 個人消息

- ★先般朝鮮鐵道局へ御かはりになつた矢島英男氏は今回同局工務課保線係として本局詰とされました。新住居は京城府元町 3 の 253 です。今後は京城にてエス運動のため盡力する筈。

## 正會員諸氏に告ぐ

別項記載のとほり(「分裂の危機に立つて」)の事情で、UEA の機能が停止状態にあるため、本會では、UEA membrokarto の發行は、しばらく、さしひかえなければならなくなりましたから、お含みおきください。

## KORESPONDA FAKO

- ★S-ro Gaston Haudréchy, (kompostisto), Longpré-les-Corps-Saints, (Somme), Francujo; jap. fraŭlino と文通したし。diversaj temoj につき。
- ★S-ro Gurnar Nilsson, Ostergaban 19, Hässleholm, Svedujo; jap. esperantistino と文通したし。
- ★Flegistinoj kaj gemalsanuloj en Japanujo kiuj dez. krsp. k ĉ.l., p.ĉ.t., skribu al S-ro Haru Ogaŭa, Kijose Hospitalo, Kijosemura, Tokio, Japanujo。

## ANONCETO

### 東洋文史研究所懇親會

12月6日(日曜日)午後4時より駒込動坂町 228 同所に於て、ザメンボフ祭を兼ねて、家庭的な談話會を催します。出席御希望の方は同所へ御一報を。會費 60 錢、夕食茶菓代。  
★前號所報展覽會材料提供は申込多數に付當分の間今後の御申込には應じ兼ねます。

### 編輯後記

★前月號と今月號はエス文が多くなりました。

★來年一月號は 12 月 25 日發送の豫定です。一月號は特輯ですその内容はお預りに致してをきます。どんなものができますか。御期待にそふものができましたらおほめ願ひます。



# Esperantistoj Vin Atendas

ここへ掲載希望の會合はすべて一般的の公開的會合に限る。(必ず會合する  
のでなければ掲載御断り)。變更の都度至急御通知を乞ふ。

**東京** ★日本エス學會例會 毎水曜 19-21 時 La Rabistoj 講義。21-21.30 時會話討論等。本郷元町電停横お茶水文化アパート横入。(費無料)。(8月より Rabistoj 講義)。

★ノーヴァ・クンシード 毎木曜 19-21 時四谷新宿二丁目市電京王電車前新宿白十字階下。

★武蔵野クンシード 毎金曜 19 時より吉祥寺驛前食堂朝日庵二階。

★浅草クンシード 毎金曜 19-21 時雷門前明治製菓二階。

★クララ・ロンド 毎土曜 14.30-16 時赤坂區中ノ町 15 井田千枝子。

★アルヂエンタ・クンシード 19-21 時銀座二丁目明治製菓二階東の隅。

★Elektro-Esp-Grupo 毎月第二金曜 19 時より銀座明治製菓で。電氣關係者の出席希望。

**横濱** ★Verda Jupitero 毎木曜 19 時半より中區住吉町三丁目(横濱劇場横通り)メツセンチャーパーイ事務所階上(費無料)。(電話 3-3943)

**札幌** ★札幌エス會 毎週水曜 19-21 時南二條西三丁目、四明堂眼科病院(研究會)。

★會話會 第二第四金曜 19-21 時南一條西三丁目森永キャンデーストア。

**小樽** ★小樽エス協會 毎月第一、第三水曜 19.30-22.30 時 永井町二丁目南小樽驛前、福田方。(フランス篇輪講中)

★小樽佛教エス會 毎月7, 14, 21, 28日 19.30-22 時 入舟町量徳寺書院にて(Ezopo 輪講中)

★エス會話會 毎月第二、第四水曜 19.30-21.30 時 稻穂十字街 Olympic 喫茶店。

**帯廣** ★學會帶廣支部 毎週金曜 19-21 時 西二條九丁目塚田醫院にて。

**旭川** ★旭川エス會 毎金曜 19-21 時一條通七丁目木津醫院にて。

**盛岡** ★盛岡エス會 毎水曜 19 時内丸 331 井川醫院方。

**富山** ★Marda Kunsido 毎火曜 19-21 時。富山市神通町、愛宕小學校左入、渡部隆志方(初等向、無料)。

**金澤** ★金澤エス會 中等部例會毎月曜 19-21 時石浦町石川貯蓄銀行。

**名古屋** ★名古屋エス會 毎週月曜 19 時より中區鐵砲町二丁目白木氏宅。

★ルーマ・クンシード 毎火曜東新町角サンパウロ喫茶店マヨール氏主宰(會話會)。

◇毎金曜 19.30-22 時名古屋新聞販賣部階上。

**京都** ★京都エス聯盟 毎月 15 日 19 時出町スター食堂。

★Oka Kunsido 毎月 8 日 19-21 時賀茂大橋東コスモ(市電叡電前)、會費 15-30 錢。

**大阪** ★大阪エス會 毎火曜 19-21 時谷町 4 丁目東市民館(但第三火曜は Trapezo で會話會)。

★新星會 毎週土曜日 19 時より北區澤上江町六ノ四三。

★ババゴ會 毎月第一第三金曜 19-21 時道頓堀辨天座前バザード喫茶店(研究會)。

**岸和田** 岸和田エス會 第一第三木曜 19 時昭和通西方寺にて會合。

**神戸** ★神戸エス協會 毎木曜 19-21 時熊内橋一丁目市電停前、神戸消費組合階上(但第一木曜は元町 1 トキワ・フルーツ・パーラー階上)。

**廣島** ★廣島エス會 毎曜 19 時大手町 7 の 89 高橋謙方。

**吳** ★吳エスペラント會 毎土曜 19-21 時北迫町 57 の 3 矢野泰方。

**福岡** ★學會福岡支部 毎月 15 日 19 時例會、橋口町ナギス屋菓舗階上。

**熊本** ★熊本エス會 ◇會話毎月第一第三月曜 19.30-21 時水道町大學堂喫茶店にて。◇和文エス譯。◇毎週木曜日 19-21 時より本莊町熊電俱樂部にて。

**大牟田** ★大牟田エス會 毎火曜 20-23 時榮町二植田醫院方。

**宮崎** ★宮崎エス會 毎火曜 19 時半より郡司氏宅(Z 讀本輪讀中)。



# LA REVUO ORIENTA

## Jarkolekto 1936

### 總目次 ENHAVO

#### 〔卷頭論文〕

過去三十年を回顧して……………	1
我々の努力は年一年と蓄積されてゆく…	41
エスペ란チストの数は	
年々増大してゐる……………	81
エスペラント運動後援會生る……………	123
第二百號を出すに當つて……………	153
言輪機關に働きかけよ……………	307
一般大衆の關心はどこへ……………	349
エス運動力點のおきどころ……………	393
萬國エスペラント大會招致……………	433
エスペラント支持者をふやせ……………	473
今年をふりかえつてみて……………	513

#### 〔學習研究・學藝〕

Vortĝardeno……………	川崎直一	18
固有名の綴り方に關する		
ザメンホフの意圖……………	岡本好次	19
Infraruĝa fotografio……………	黒崎誠	25
Japanaj antikvaj ŝipoj……………	田口龍雄	30
Fonetikaj signoj de Z. kaj		
Rusa lingvo……………	川崎直一	54
動詞 Fari の用法……………	小坂狷二	55
82, 136, 320, 365, 399, 457, 483, 522.		
なぜこんな形か……………	川崎直一	57
Plena Gramatiko 紹介……………	岡本好次	58,
95, 140, 324, 369		
Patriota knabino en Islando 鶴見祐輔		62
Batalo de l' Vivo を讀んで…	川崎直一	94,
367, 482		
Jane Eyre の戀……………	萬澤まき子	98,
144		
Sinmortigo laŭ la modo……………	田畑喜作	105
Taketori-monogatari……………	五十嵐正巳	108,
331, 373, 495		
Aŭtenika Teksto de Z.……………	川崎直一	139
Kiamansere malnovaj japanoj		
antaŭdivenis la veteron?…	田口龍雄	148,
333		
Pri la Jafetida lingvoteorio…	ISAJEV	150

#### フランス文學と

エスペラント……………	寛太郎譯	154
Pri l' moderna arto の		
もつ意味……………	瑛九	311
Gösta Berling 物語……………	萬澤まき子	314, 362
ツル本とザラ本……………	川崎直一	322
Marta 語彙に關する		
二三の統計……………	城戸崎益敏	450
黑板 Esp-Japana Vortaro		
の原本……………	川崎直一	455
山の王者……………	萬澤まき子	460,
486		
Birosendilo 其他……………	大木克巳	480
Modernaj utaoj……………	中村田鶴雄	490
Sur la Vojo……………	城内忠一郎	491
Fabelo……………	西村正雄	492
落穂拾ひ……………	川崎直一	525
アフリカ莊園の物語……………	萬澤まき子	527
Skizo de la lingvo internacia		
“Zilengo”……………	丘淺次郎	530
Moderna Edukado		
en Japanujo……………	新川正一	532
Pri etimologioj de esperantaj		
vortoj……………	藤田龜三	534
Florvazo……………	西村正雄	537
Respondante al la Demandoj		
pri Manĉurio……………	南滿洲鐵道株式會社	493,
537		
La Trombo……………	田口龍雄	450

#### 〔運動・宣傳〕

新しき健實な歩みで新年を		
迎へて過去を想ふ……………	柴田義勝	2
重任をおびて九州の		
同志を訪ぬ……………	久保貞次郎	4
我邦エス運動の將來のみとほし……………		15
地方會はかく働け……………	由比忠之進	43
國際觀光局を驚かした		
エスペラントの偉力……………	矢島英男	45
目で見た		
地方エスペラント運動……………	久保貞次郎	48



- 内地報道…………… 34,  
69, 118, 157, 177, 302, 339, 383, 427,  
466, 506, 545.
- 内外エス運動展望…………… 67,  
116, 155, 175, 299, 336, 381, 426, 465,  
503.
- 來年の萬國教育會議にはエス  
ペラントを用ひたい……………永田秀次郎 38
- エス運動は中央地方の  
相互認識から……………原田三馬 85
- 特使に托された九州地方會の希望と  
それに對するお答へ……………事務部 87, 173
- 財團法人日本エスペラント學會  
會計報告……………三石理事 112
- エスペラントの聖書……………三宅正太郎 124
- 人工語に對する私の考へ……………パーマー 126
- 萬國兒童作品展覽會  
いつてに……………荒木 遜 128
- フランス文學と  
エスペラント……………笈太郎(譯) 131
- エスペラントの大乗性……………山口竹千代 134
- 永田拓相と語る…………… 156
- 明年夏の世界教育會議打診……………岡本好次 153
- エスペランチストは  
獨善主義をすてよ……………貴司山治 160
- 北より南へ……………久保貞次郎 161
- エスペラント運動後援會報告…………… 184,  
305, 345, 389, 511.
- 日本エスペラント運動の回顧…………… 185
- 我國エスペラント移入の  
三系統……………藤間常太郎 187
- 初めて掲げた日本エス  
ペラント協會の看板……………中村有樂 191
- 横須賀に日本エスペラント協會  
を創立した當時の思ひ出……………加藤 節 191
- 生きたる證據……………千布利雄 196
- ガントレット氏について  
エス語を學ぶ……………村本達三 197
- おお偉大よ、偉大よ……………小坂狷二 200
- 思ひ出……………丘 淺次郎 202
- 明治25年エス語に就て聞く……………下瀬謙太郎 203
- エスペラントと私……………吉野作造 205
- 日露役直後滿洲で  
エス語を學ぶ……………高橋邦太郎 207
- 明治時代長崎で  
エス語をやつた人……………富松正雄 211
- 思ひ出……………月本喜多治 212
- 明治時代の思ひ出……………野原休一 214
- 高知でエス語を勉強した頃……………吉川桂太郎 218
- 回顧三十年……………赤松定雄 219
- エス語と私との因縁……………堺 利彦 219
- 三十年前の思ひ出……………藤林房藏 220
- 協會横濱支部の思ひ出其他……………速水信宗 222
- エスペラントの思ひ出……………美野田琢磨 224
- 思ひ出……………中目 覺 226
- 想出す人々……………佐々城 佑 228
- エスペラントを始めた時……………重松達一郎 237
- 露都駐在中エス語を學ぶ……………萩野末吉 231
- エス語を學び始めた頃……………大石和三郎 232
- 長府でエスペラント學習  
の思ひ出……………梶間百樹 235
- 雜魚のととまじり……………伊藤徳之助 235
- 思ひ出……………河村北星 237
- 協會京都支部發會當時回顧……………藤田龜三 238
- 日本で最初の  
エスペラント語學校……………小山英吾 240
- エスペラントと私……………松隈健彦 242
- 廿年前のこと……………神近市子 243
- 山中から京都市へ……………竹内藤吉 244
- 過ぎし日の十字架の下に……………成田重郎 246
- 大阪における種まき時代……………高尾亮雄 249
- 回顧……………八木日出雄 252
- 臺灣エスペラント運動回顧……………連 溫 卿 255
- 琉球エスペラント運動回顧……………比嘉春潮 258
- 小坂氏と  
エス譯君ケ代を歌ふ……………林 皐 260
- 思ひ出……………藤澤親雄 261
- 札幌でエス語を學び始めた……………三田智大 262
- 世界醫學文獻は  
エス語で統一……………村田正太 263
- 一つの追憶……………西 成甫 266
- 私にエス語を奨めた大杉榮……………板橋 鴻 267
- 綠星下における二葉亭四迷……………井上 一 268
- 私の經驗……………能勢淡二 271
- ザメンゴフ氏の人間性禮讃……………鳴海要吉 272
- ヴォラビークより  
エスペラント迄……………田鎖綱紀 274
- 數々の思ひ出……………山鹿泰治 276
- 僕の思ひ出……………磯崎 巖 279
- 名古屋とエスペラント……………山田 弘 286
- Fundamento de Esperanto に  
三度邂逅……………山田武一 290
- エス語を眞に東洋民族に通用  
せしむるには……………坂本清馬 291
- 私の生活に勇氣を與へた  
エスペラント……………秋田雨雀 292
- 數氏よりの御返事…………… 295
- オリンピック大會及  
日蝕觀測に際し陳情……………山田、矢崎 298
- 第十三回九州エスペラント大會…………… 301



第六回北陸エスペラント大會……………	338
第二回學會特使派遣……………	347, 390,
實にならぬ	
エスペラント漫談……………	高橋邦太郎 354,
	398, 437
田舎でエス語學習の苦しみ…	田中顯道 357
エス界先覺の學習動機	
其他調査統計……………	淺草エス會 359
De Hakodate al Sapporo……………	相澤治雄 376
第二十四回日本エス大會……………	391, 402,
北海道と東北の同志を訪て…	岡本好次 410
Vandalisma Stormo	
tra Germanujo……………	423
滿洲國旅行案内案に對する	
請求書を整理して……………	寛太郎 438
南洋緑の旅……………	林好美 441
オリビツク商賣往來……………	前波・永田 445
日米學生會議に於ける	
國際語討論……………	川本茂雄
	久保貞次郎 446
	木村豊
南洋緑の旅……………	林好美 477
第二十八回	
萬國エスペラント大會……………	518
日本大會後の札幌……………	相澤治雄 517
分裂の危機に立つて……………	518

## エス運動力點のおきどころ

會話會禮讃……………	多羅尾一郎 308
國際通信禮讃……………	原田三馬 351
實用第一主義……………	大谷正一 394
文獻擴充第一主義……………	露木清彦 434
宣傳第一主義……………	高橋菊藏 474
講習會第一主義……………	高橋要一 476
學校講習第一主義……………	渡部隆志 514

## 〔雜〕

宗近兄をいたむ……………	松葉菊延 65
Parolas membroj……………	78, 379, 543
Parolas Redakcio……………	78
中大路政次郎君のことども	{ 中野壽一 89
	{ 中村卯三 91
新刊紹介……………	102, 147, 328, 541
Robert Kreuz 氏を惜む……………	進藤靜太郎 135
坪田一男君を悼む……………	松田周次 317
辻利助氏の憶ひ出……………	米田徳次郎 318
一星落つ……………	竹中治助 443

## 〔附 録〕

## Oficiala Protokolo

第二十三回日本エス大會……………	三月號附録
第二十四回日本エス大會……………	十二月號附録

おことわり：本年度通し頁は4月號から5月號にかけて148-157頁は二重になつてゐます。あしからず。



エスぺラント捷徑	多少外國語素養ある者のため最良の獨習書…	0.50	4
エスぺラント講座	外國語を知らぬ人のため最良の獨習講義録…	0.50	4
新撰エス和解辭典	語數豊富, 譯語正確, 携帶至便…	上 0.80	2 並 0.60 2
新撰和エス辭典	見出語數6萬, 出典明示, 附錄豊富, 印刷鮮明…	2.50	6
新撰エス文手紙の書方	書簡百科辭書の觀, 例文豊富, 四六判 370 頁…	1.20	8
エスぺラント日記の書方	365日, 1日1文例, 社會萬般の生活記錄, 譯註付	1.20	6
エスぺラント講習用書	エスぺラント 短期講習書…	0.20	2
エスぺラント初等讀本	エスぺラント 中等讀本…	0.30	2
エスぺラント童話讀本	イソップ物語 親切明快, 脚註付…	0.20	2
ザメンホフ讀本	ザ著作拔萃…全3卷, 各卷 0.20 2 合卷	0.50	4
エスぺラント醫學文範	醫學論文の好模範, 醫學生の講習會に最好適	0.40	4
エスぺラント發音研究	エス語發音上の疑問を氷解す…	0.30	4
エスぺラント文例集	重要語 720 の文例…	0.80 6	カード 1.50 14
點字エス文法と小辭典	エスぺラントの鍵…	0.05	2
リングヴィ・レスポンドイ	ザ博士の言語上の解答を蒐む必備の書…	0.50	4
國語の擁護を論じて國際語に及ぶ	黑板博士の歴史的論文其他を収む…	0.20	2
言語學と國際語	スピリドヴィッチの新言語理論…	0.70	6

## エスぺラント文庫

1. ザメンホフの生涯…	0.40	4
2. 國際通信の常識…	0.50	4
3. 世界語の歴史…	1.50	10
4. エスぺラントの會話…	0.40	2

## エスぺラント對譯詳註叢書

1.	マテオ・ファルコネ	0.30	2	4.	代理通譯	0.30	2
2.	ハイネ詩集	0.30	2	5.	愛あるところ神あり	1.50	6
3.	魔法使	0.30	2	6.	レイモント短篇集	0.30	2
エスぺラント童話集		「エス童話讀本」の對譯脚註篇				0.60	4

## エスぺラント文藝讀本

1. スラヴ篇…	0.25	2
2. フランス篇…	0.30	2
3. 沙翁悲劇篇…	0.25	2
5. 北歐篇…	0.30	2

## エスぺラント書き文獻

惜みなく愛は奪ふ	有島武郎の傑作…	上 1.00	並 0.75 4
ヴェルダ・カルト	大朝懸賞當選小説, 五十年後の社會…	1.00	4
中村精男博士遺稿集	原作科學論文, 文學作品の翻譯等…	0.70	4
佐々城松榮遺稿集	原作對話, 翻譯文學等…	0.80	4
綠葉集	伊井迂著原作詩と詩歌俳句等の翻譯…	0.80	4
日本書紀	I 神代, 神武紀 II (近刊)…	1.20	6
海神丸 野上彌生子…	東洋の俠血兒 長谷川伸…	0.45	4
骸骨の舞踏 秋田雨雀劇曲三篇…	倫敦塔 夏目漱石…	0.15	2
佛說阿彌陀經漢譯對照…	霧の中 山本有三…	0.15	2
日本民族の起源…	日本刀 劍鑑…	0.15	2
大學中庸…	孝經…	0.30	2



# LIBROFESTO

## エスぺラント本の祭

12月1日 → 12月30日

例年のとほり、12月15日のザメンホフ誕生日を記念して「本の祭」を催します。ごなたも、エスぺラント文献豊富化の上に意義深い、この企てに御賛同の上、この好機會にあなたの書架をより充實させてください。

この期間に本會でエスぺラント圖書お買求めの方には、下記のとほり圖書引替券を差上げます。

### — 規 定 —

1. 本會發行圖書はお買求め總額一時に 50 錢以上、他店または外國發行圖書はお買求め總額一時に 1 圓以上のばあひに進呈。但し各定額に満たないばあひも、合計 1 圓に達すれば、本會發行書も他店、外國發行書並みに取扱ひ合算。
2. 本會發行圖書に對しては定價の一割五分、その他に對しては定價の一割に當る額面の圖書引替券を進呈。(厘位切捨)
3. AELA 會員の特價その他割引提供のものには進呈せず 但し學會會員直接御注文のザメンホフ著作書に限り割引提供の上、引替券進呈。
4. 圖書引替券は前金御注文の方に限り進呈。
5. 地方會で取纏め、總額一に 5 圓以上、前金で御注文の際は、送料當方で負擔の上、本會發行書に對しては定價の一割、その他に對しては五分割引の上、上記規定のとほり圖書引替券を進呈。



圖書目錄 (9・20 版) 贈呈



東京本郷元町

財團  
法人

日本エスぺラント學會

振替東京 11325 番



# CU NIA IDEO ESTAS LIBERA ?

これは、しかし、現在の社會問題を取扱つた單行本の  
標題ではありません。これは、我が國における法醫學  
の泰斗として知られる淺田一博士が、「エスペラント」  
一月號のために寄せられたエスペラント文讀み物。最  
近の醫學界で問題の反射學を誰が讀んでも、おもしろ  
く、わかりやすく解説されたものです。  
「エスペラント」誌の一月號にはおもしろい記事が、ま  
だあります。それは、

## 革命前夜の首都マドリッド

これは、大阪市からロンドンの第三回國際社會事業大  
會に派遣された池川清氏の土産話。革命前夜のマドリ  
ッドの青年たちは、何を考へ、何をしてゐたか。情熱  
の國スペインのただれきつた夜の生活と、その中から、  
むくむくと起きあがるものは何？ エスペランティスト  
のみが拾ひとり得た特種記事！ その他、エスペラン  
ト運動五十周年を記念するための石賀修氏の新しいザ  
メンホフ傳をはじめ、新鮮潑刺な記事を満載した

「エスペラント」一月號は

十二月中旬颯爽と市場へ

なほ、すでに發賣中の十二月號には、日米親善使節  
磯部幸子嬢の見て來た

## アメリカのエスペラント運動の批判

があります。これは、エスペラント運動従事者が、必  
ず見落してならない記事。その他、例によつて興味と  
實益の學習記事満載。

二十錢擱んで、すぐ書店へ！